

「道德感情論」入門

--- D. ヒュームとA. スミスの倫理思想 ---

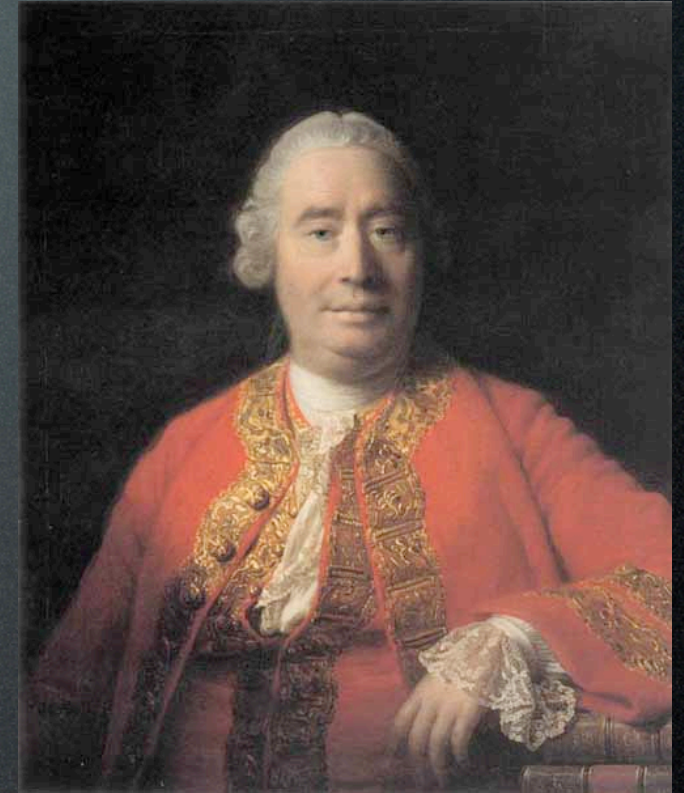
林 誓雄

(文学研究科 倫理学)

復習：カント倫理学の性格

2. 共感：道徳判断の原理

「個別利害に関わらない」



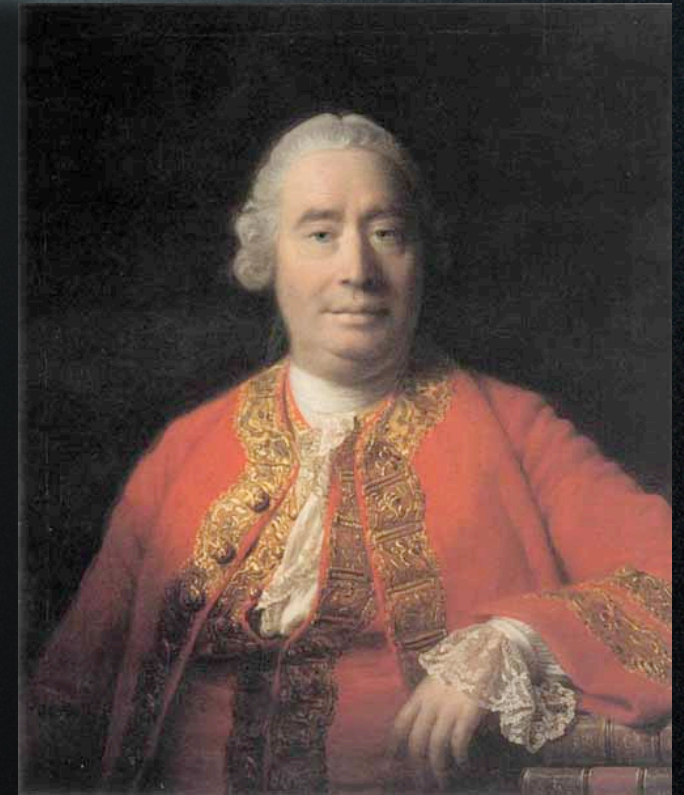
ヒューム

復習：ヒュームの道徳哲学・倫理学

復習：ヒュームの道德哲学・倫理学

「道德の非実在性」

「道德的善悪（徳・悪徳）」とは、「対象そのもの」や「対象間の関係」にあるのではなく、観察者の胸中で抱かれる情念・感情にある。

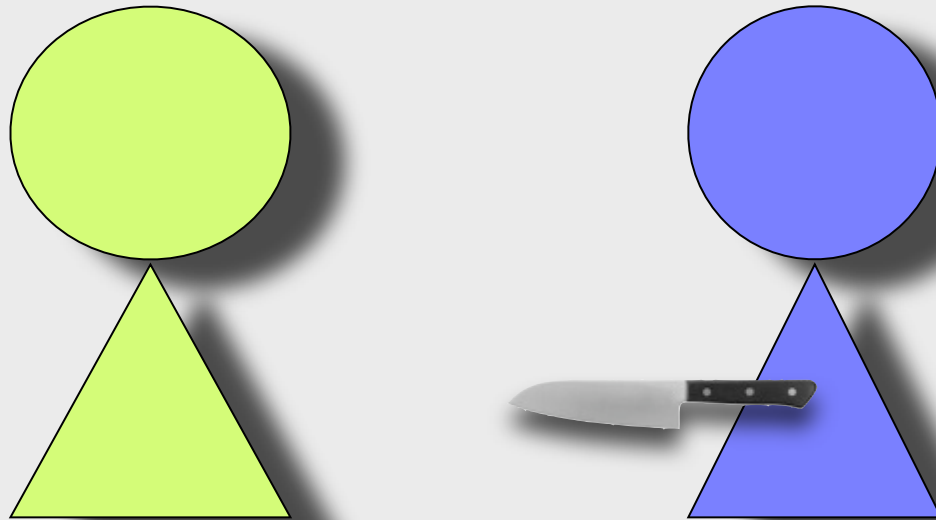


ヒューム

道德の非実在性

道徳の非実在性

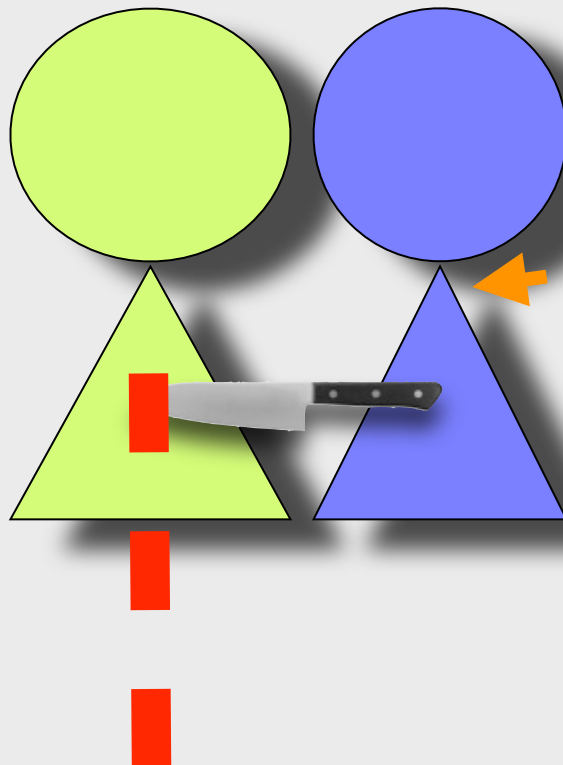
故意の殺人現場



見てる人
デービッドさん
スコットランド在住

道徳の非実在性

故意の殺人現場



きゃ～

!?



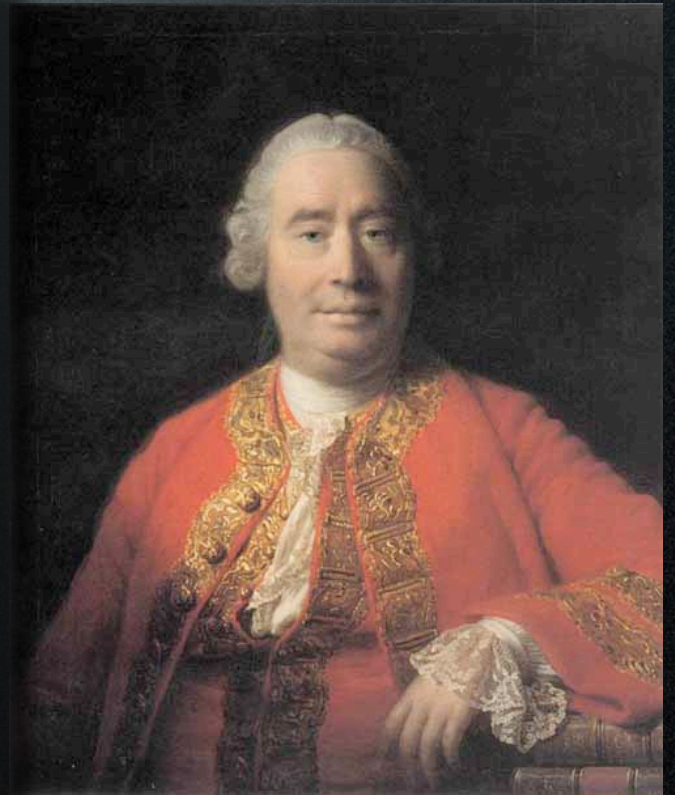
見てる人
デービッドさん
スコットランド在住

「主観主義」という問題点

「主観主義」という問題点

◆ 個人的な**是認**(スキ)・**否認**(キライ)の感情で「**道德判断**」してもよいのか？

◆ 道德判断とは、**客観的なもの**でなければいけないのでは？



ヒューム

今週の講義の流れ

目的： ヒュームの道徳判断の仕組みと、アダム・スミスの道徳判断の仕組みとをおさえた上で、ヒュームとスミスの倫理思想を比較してみる。

今週の講義の流れ

目的： ヒュームの道徳判断の仕組みと、アダム・スミスの道徳判断の仕組みとをおさえた上で、ヒュームとスミスの倫理思想を比較してみる。

1. ヒュームにおける
道徳判断の仕組み



2. スミスにおける
道徳判断の仕組み

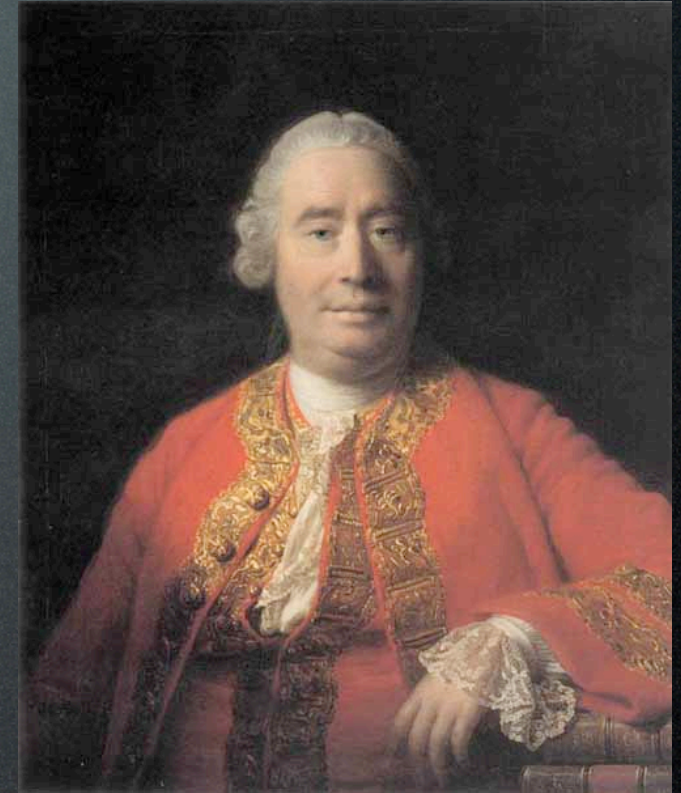


3. ヒュームとスミスの
比較検討

道徳判断の仕組み

再検討

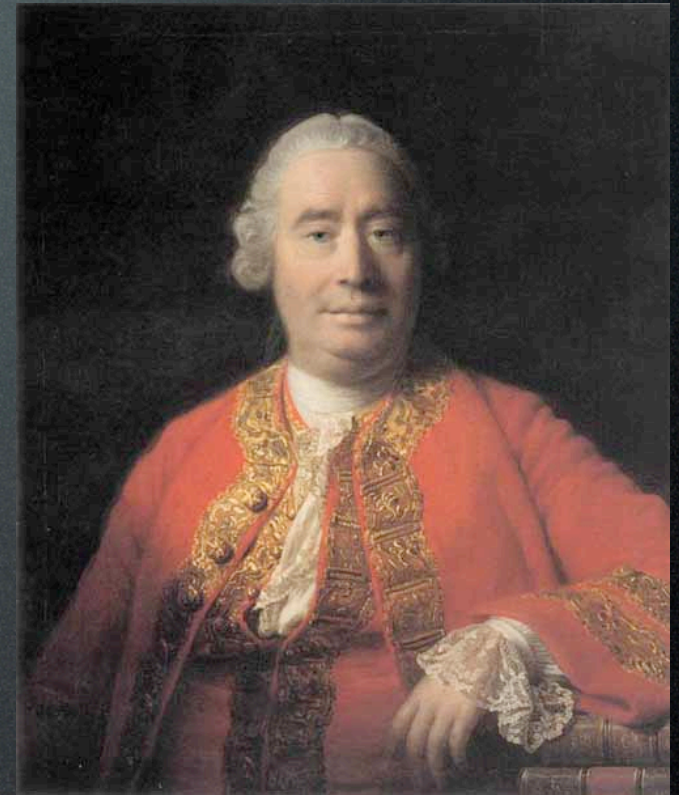
1. 道徳判断とは、行為者の**性格**に対して下されるもの
2. ほとんどの道徳判断には「**共感**」というものが関与
3. 「共感」のブレを補正するための「**一般的観点**」という装置



ヒューム

1. 性格：道徳判断の対象

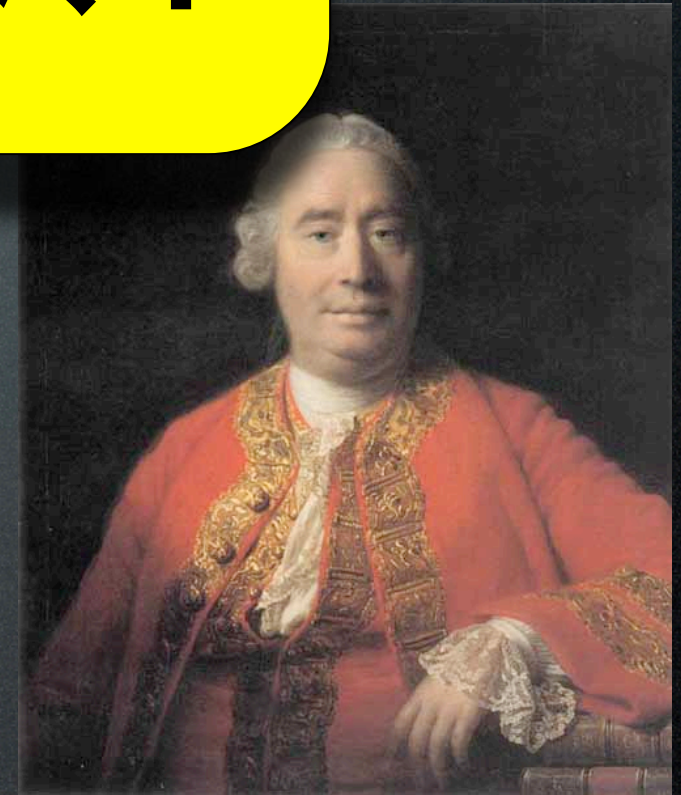
「ある**性格**が一般的に、われわれの個別利害に関わりなく考察される場合にのみ、その**性格**は、それを道徳的に善い・悪いと呼ぶような**感じ・感情**を引き起こす。」[引用-1]



ヒューム

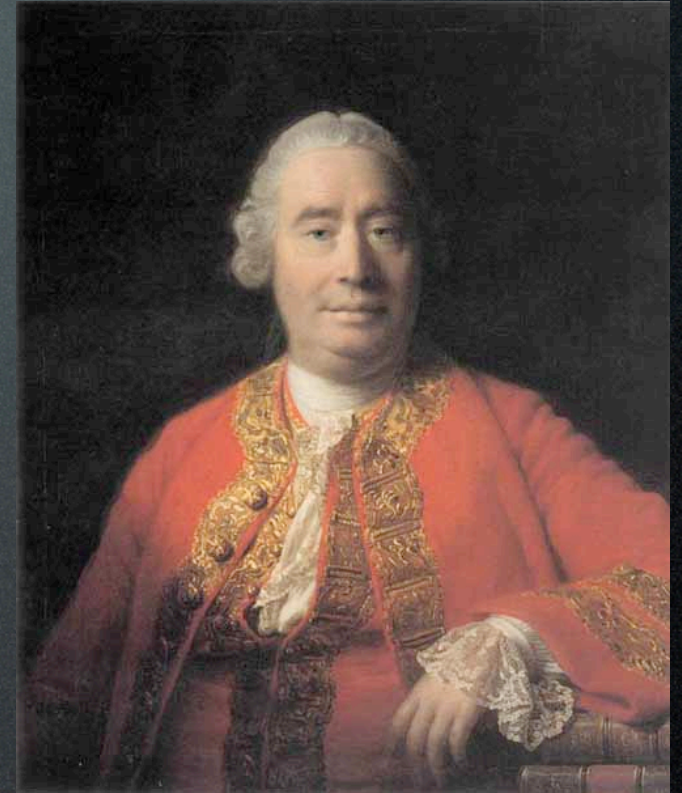
個別利害に関わりなく？

「ある**性格**が一般的に、われわれの個別利害に関わりなく考察される場合にのみ、その**性格**は、それを道徳的に善い・悪いと呼ぶような**感じ・感情**を引き起こす。」[引用-1]



ヒューム

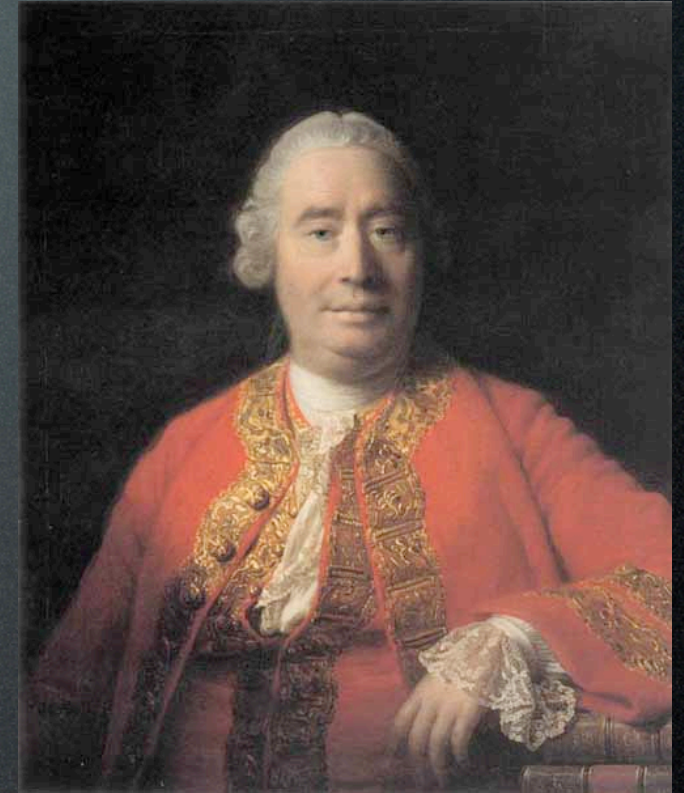
2. 共感：道徳判断の原理



ヒューム

2. 共感：道徳判断の原理

「個別利害に関わらない」

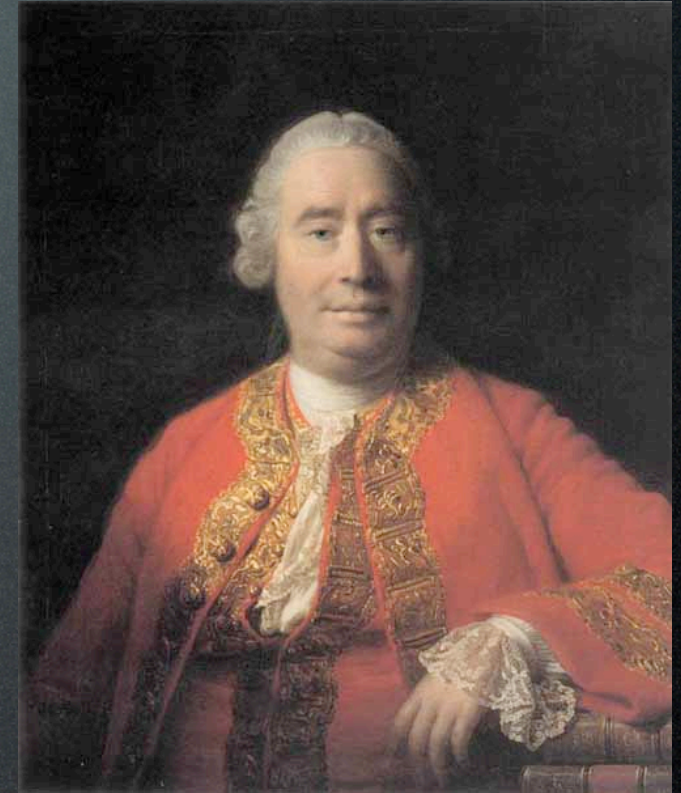


ヒューム

2. 共感：道德判断の原理

「個別利害に関わらない」

⇒ 道德判断を下す**当人の**
(に関わる)感情ではない！



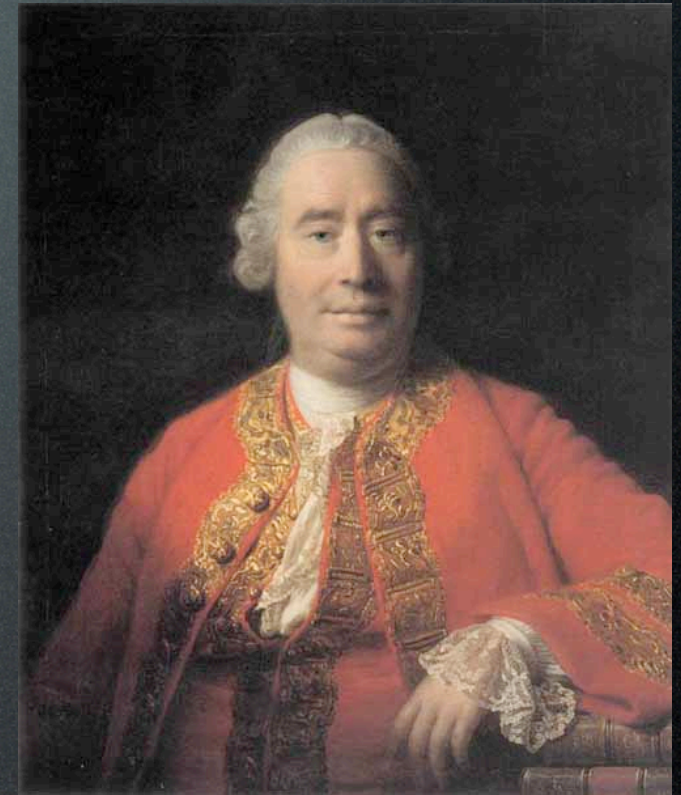
ヒューム

2. 共感：道徳判断の原理

「個別利害に関わらない」

⇒ 道徳判断を下す**当人の**
(に関わる)感情ではない！

Q. じゃあその感情はどこ
から来たの？



ヒューム

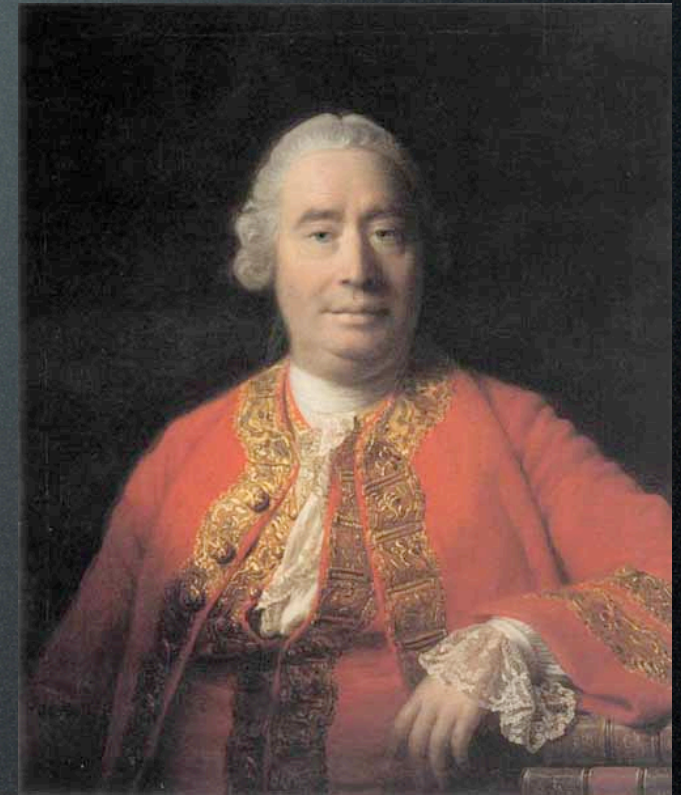
2. 共感：道德判断の原理

「個別利害に関わらない」

⇒ 道德判断を下す**当人の**
(に関わる)感情ではない！

Q. じゃあその感情はどこ
から来たの？

A. 「**共感**」を通じて、
「**他者**」から！



ヒューム

2. 共感：道德判断の原理

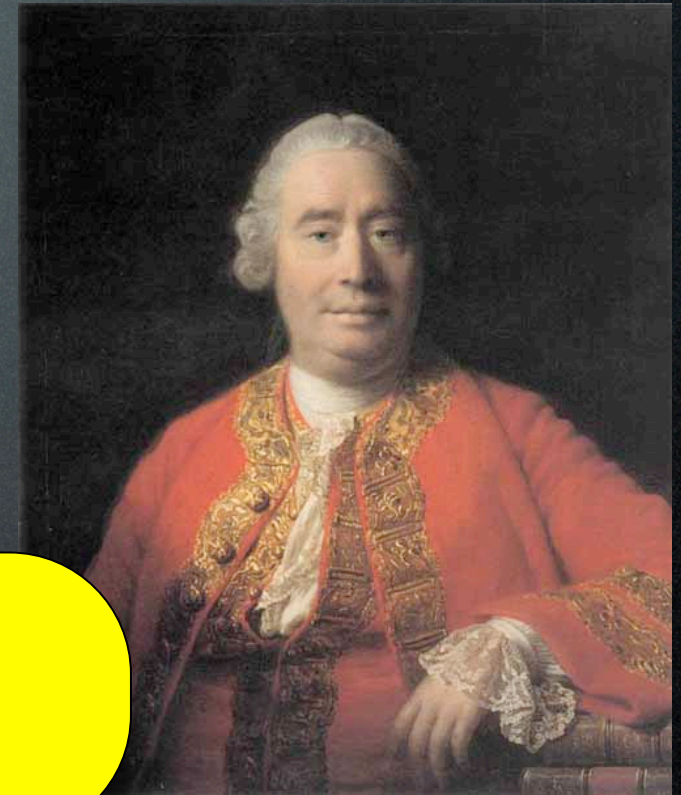
「個別利害に関わらない」

⇒ 道德判断を下す**当人の**
(に関わる)感情ではない！

Q. じゃ
から来たの？

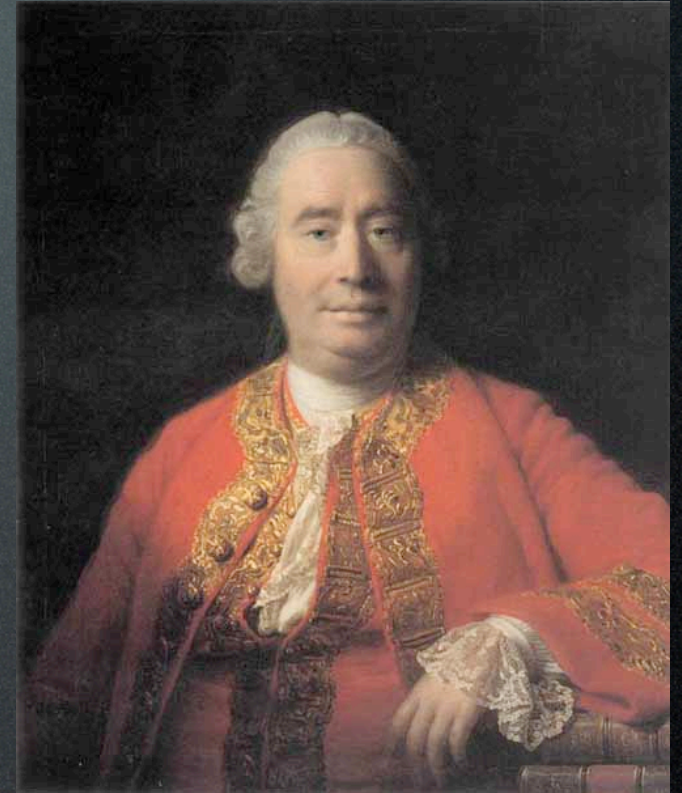
共感？？？

A. 「**共感**」を通じて、
「**他者**」から！



ヒューム

2. 共感：道徳判断の原理

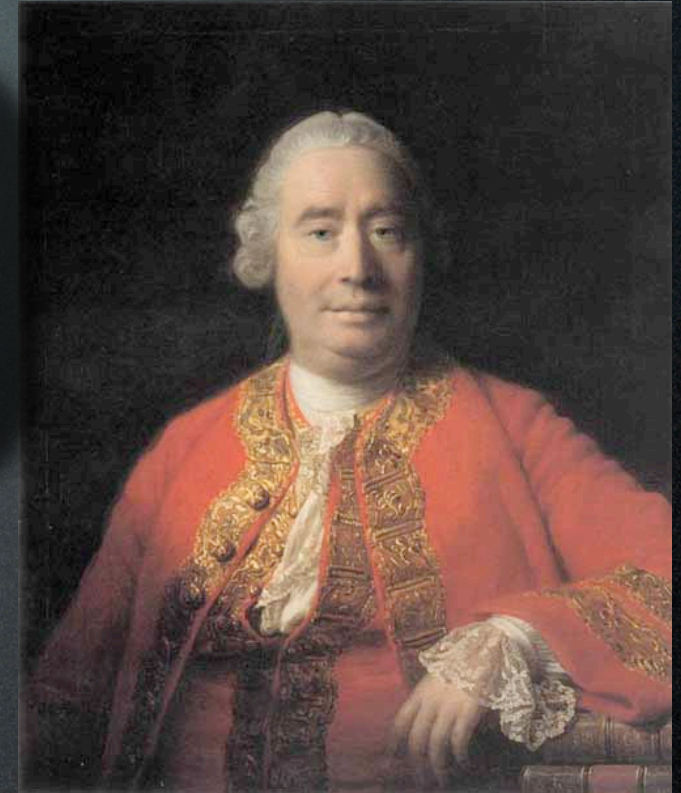


ヒューム

2. 共感：道徳判断の原理

共感

他者の感情をコミュニケーション
によって獲得する性向(T 2.1.11.8)



ヒューム

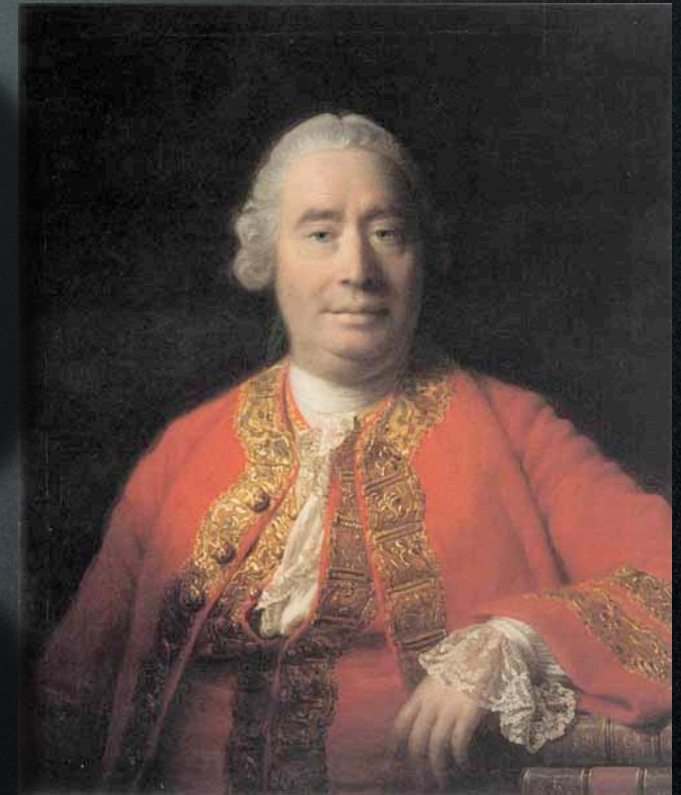
2. 共感：道徳判断の原理

共感

他者の感情をコミュニケーション
によって獲得する性向(T 2.1.11.8)

注意！

「共感」 ≠ 哀れみ、同情



ヒューム

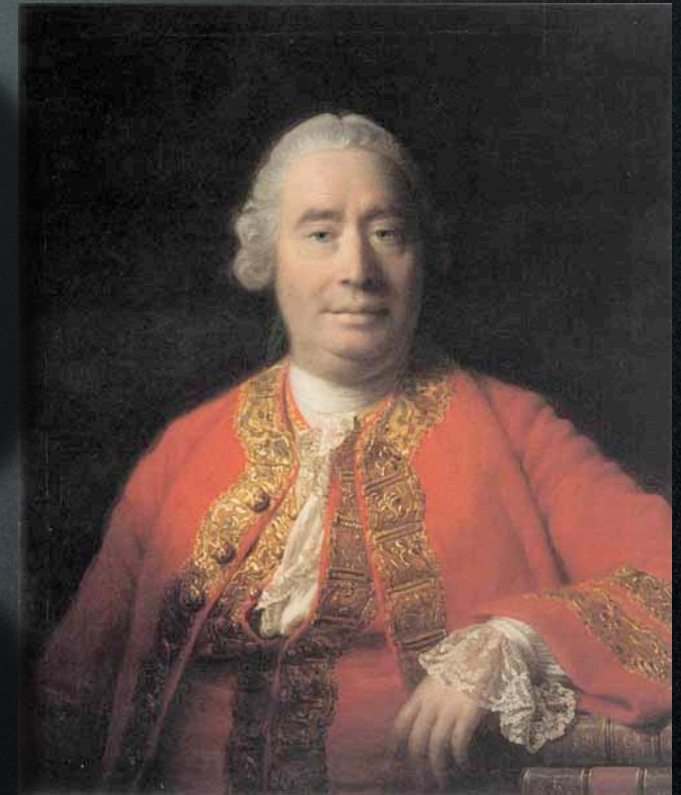
2. 共感：道徳判断の原理

共感

他者の感情をコミュニケーション
によって獲得する性向(T 2.1.11.8)

注意！

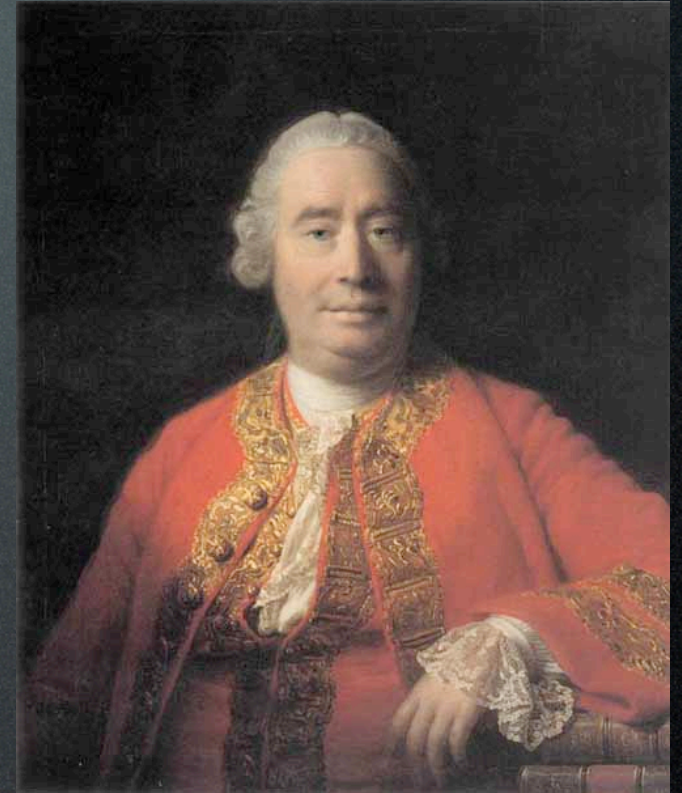
「共感」 ≠ 哀れみ、同情



ヒューム

共感とは、相手の顔つきや会話に表れる様子・態度から、その人の感情を推測する結果、相手と同じような感情を獲得する能力のこと

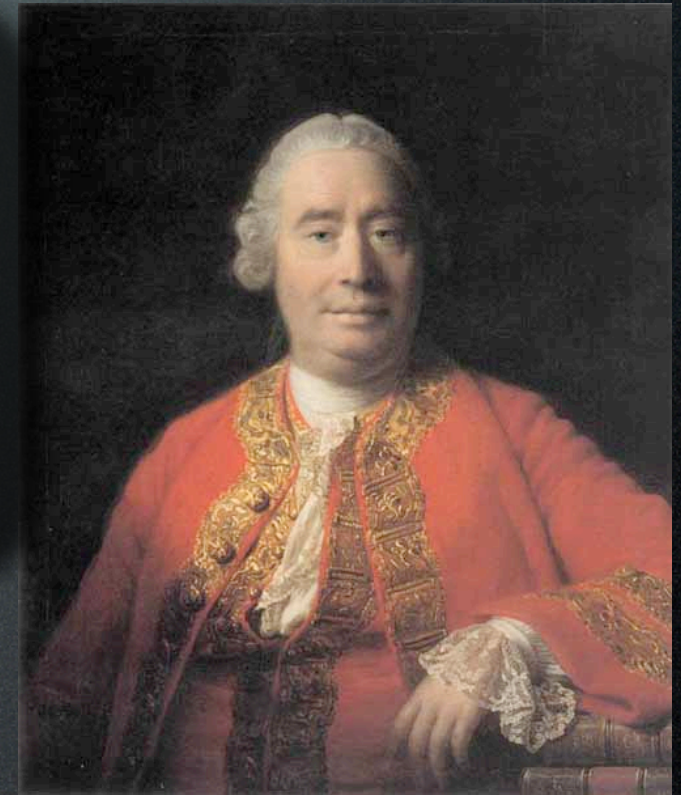
2. 共感：道徳判断の原理



ヒューム

2. 共感：道徳判断の原理

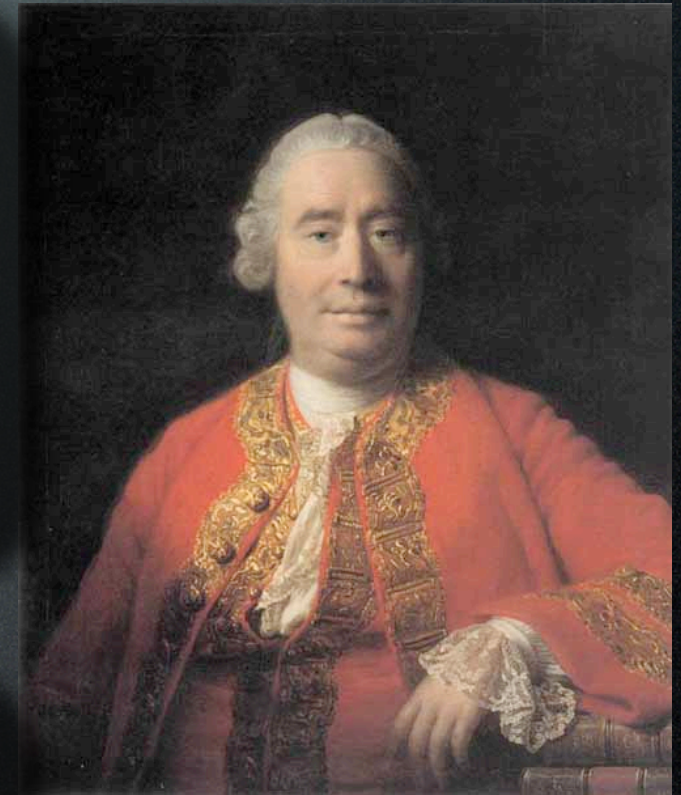
ヒュームの道徳哲学では、
「**共感**」が善悪の区別の主
要な源泉！(T 3.3.6.1)



ヒューム

2. 共感：道徳判断の原理

ヒュームの道徳哲学では、
「共感」が善悪の区別の主
要な源泉！(T 3.3.6.1)



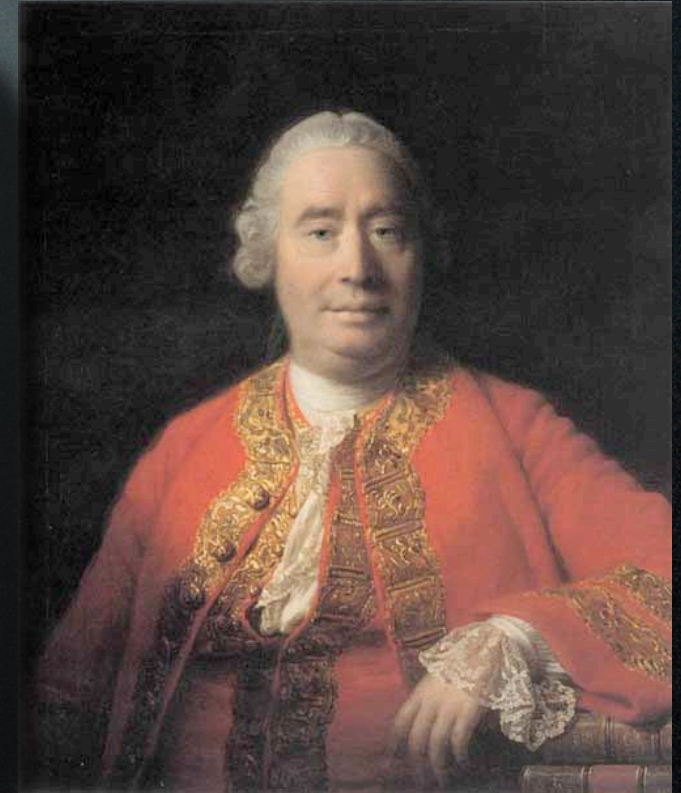
ヒューム

でも、個人的な「共感」で
は、依然として「客観性」が
保証されていないのでは？

2. 共感：道德判断の原理

そのとおり！

共感は**立場や状況の変化**に応じて、当人に様々な感情を抱かせる。特に、赤の他人より**家族や友人**に対して強くはたらく！

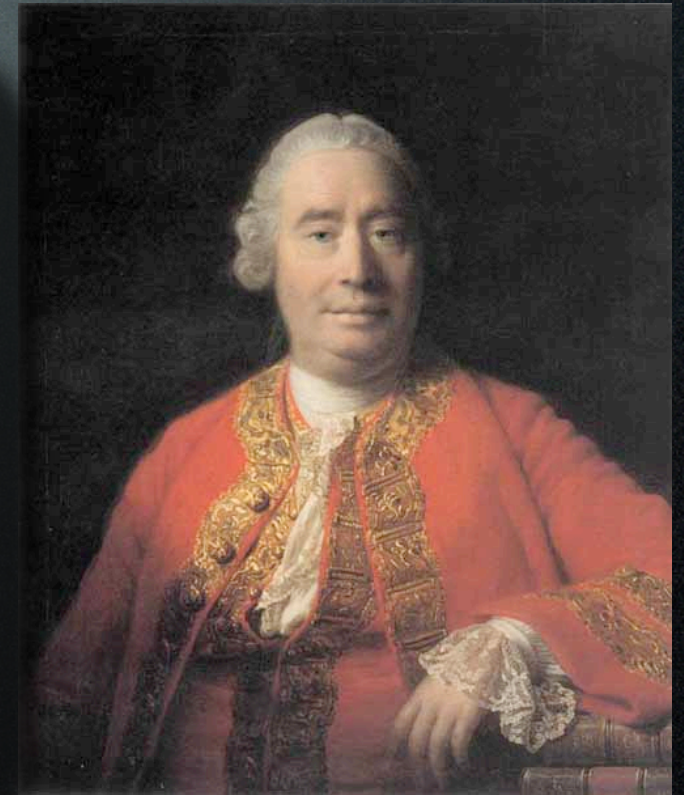


ヒューム

2. 共感：道徳判断の原理

そのとおり！

共感は**立場や状況の変化**に応じて、当人に様々な感情を抱かせる。特に、赤の他人より**家族や友人**に対して強くはたらく！

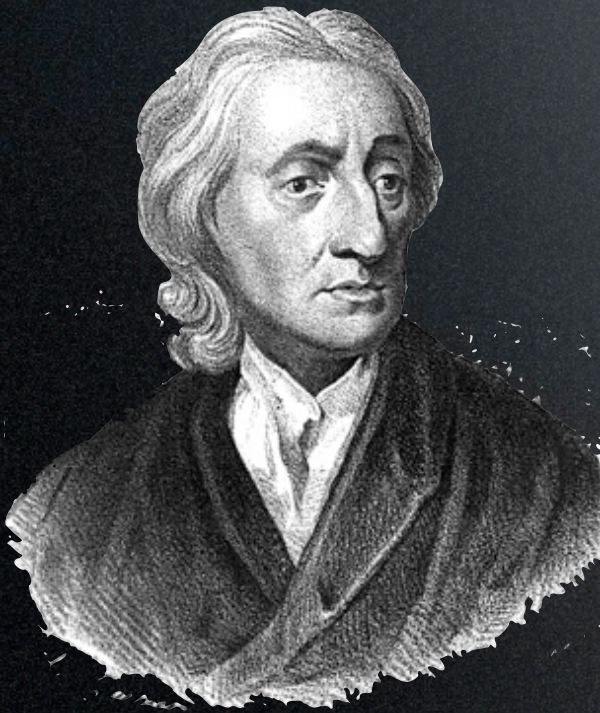


ヒューム

個人に応じた観点から性格を見ていても、意見はなかなか一致しない

3. 意見の相違：一般的観点に至るまで

3. 意見の相違：一般的観点に至るまで



ジョンさん(友情出演)
イングランド在住



出所 <http://ja.wikipedia.org/wiki/イマヌエル・カント>



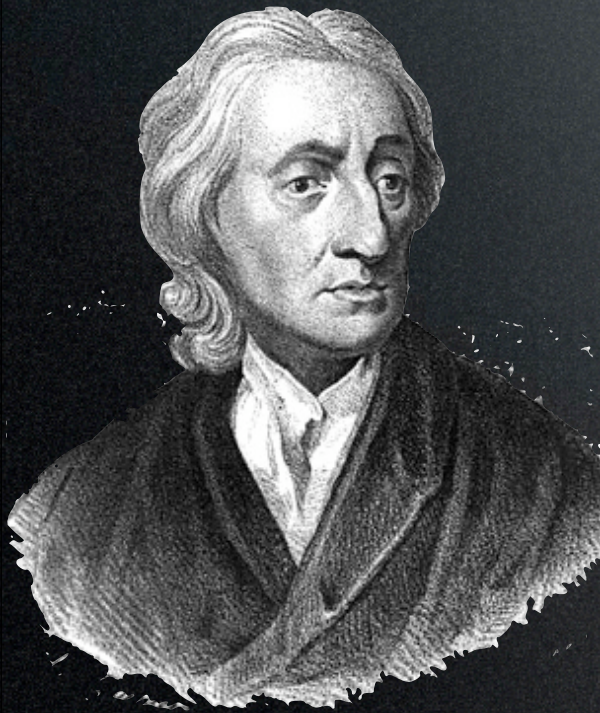
デービッドさん
スコットランド在住

出所 <http://faculty.uml.edu/enelson/modern07.htm>

出所 http://en.wikipedia.org/wiki/John_Locke

3. 意見の相違：一般的観点に至るまで

カントって嫌な
ヤツっぽいね



ジョンさん(友情出演)
イングランド在住



出所 <http://ja.wikipedia.org/wiki/イマヌエル・カント>



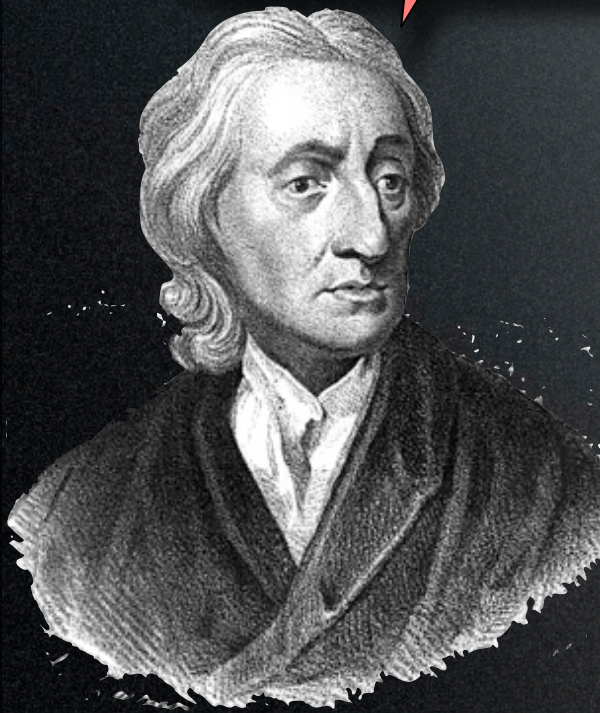
デービッドさん
スコットランド在住

出所 http://en.wikipedia.org/wiki/John_Locke

出所 <http://faculty.uml.edu/enelson/modern07.htm>

3. 意見の相違：一般的観点に至るまで

カントは善い
人ですよ！



ジョンさん(友情出演)
イングランド在住

カントって嫌な
ヤツっぽいね



出所 <http://ja.wikipedia.org/wiki/イマヌエル・カント>



デービッドさん
スコットランド在住

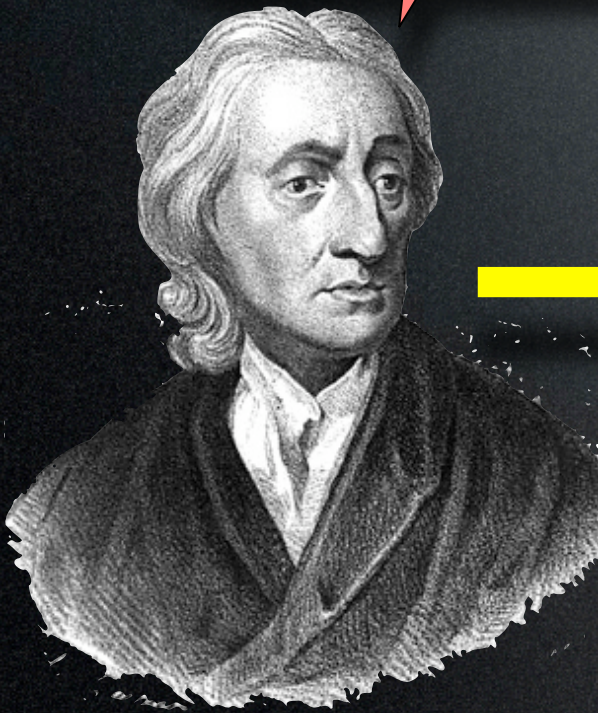
出所 <http://faculty.uml.edu/enelson/modern07.htm>

3. 意見の相違：一般的観点に至るまで

カントは善い
人ですよ！

カントって嫌な
ヤツっぽいね

意見の対立



ジョンさん(友情出演)
イングランド在住



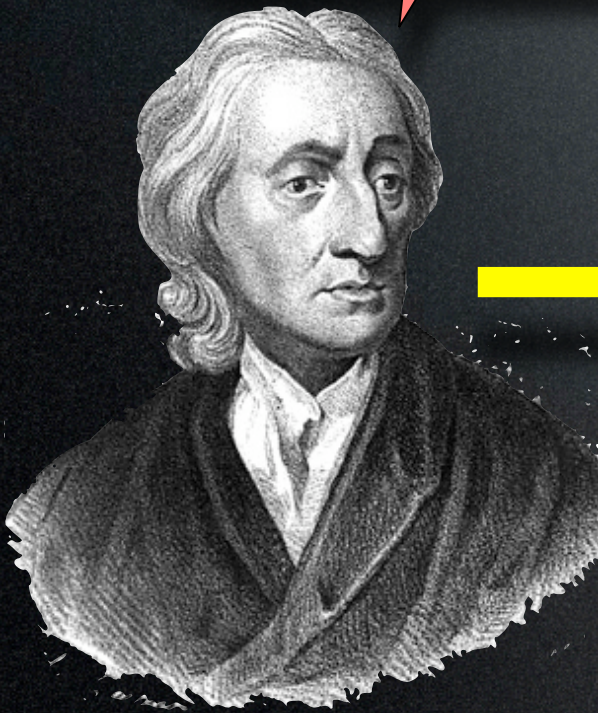
デービッドさん
スコットランド在住

3. 意見の相違：一般的観点に至るまで

カントは善い
人ですよ！

カントって嫌な
ヤツっぽいね

そこで...



ジョンさん(友情出演)
イングランド在住



デービッドさん
スコットランド在住

3. 一般的観点：共感の補正

…我々一人一人が性格や人柄を、それらが個人の特殊な観点から、現れるままに考察しようとするならば、我々が合理的な言葉によって意見を交わすことは不可能であろう。それゆえ、そうした絶えざる不一致を防ぎ、事物についての一層安定した判断に至るために、ある**不動かつ一般的**な観点を我々は定め、そして自分達の目下の状況がどんなものであれ、我々が何かを考える際には、常に自分達をその視点に置くのである。[引用-2]

3. 一般的観点：共感の補正

…我々一人一人が性格や人柄を、
特殊な観点から、現れるままに
ならば、我々が合理的な言葉に
することは不可能であろう。それ
えざる不一致を防ぎ、事物についての一層安定し
た判断に至るために、ある**不動かつ一般的**な観点
を我々は定め、そして自分達の目下の状況がどん
なものであれ、我々が何かを考える際には、常に
自分達をその視点に置くのである。[引用-2]

一般的？

3. 一般的観点：共感の補正

普遍的な観点？

一般的？

ならば、我々が合理的な言葉に訴えることは不可能であろう。それゆえに、我々が絶えざる不一致を防ぎ、事物についての一層安定した判断に至るために、ある**不動かつ一般的な観点**を我々は定め、そして自分達の目下の状況がどんなものであれ、我々が何かを考える際には、常に自分達をその視点に置くのである。[引用-2]

3. 一般的観点：共感の補正

普遍的な観点？

一般的？

理想的な観点？

た判断に至るために、ある**不動かつ一般的な観点**を我々は定め、そして自分達の目下の状況がどんなものであれ、我々が何かを考える際には、常に自分達をその視点に置くのである。[引用-2]

3. 一般的観点：共感の補正

普遍的な観点？

理想的な観点？

偏らない観点？

一般的？

不動かつ一般的な観点
達が目下の状況がどん
なものであれ、我々が何かを考える際には、常に
自分達をその視点に置くのである。[引用-2]

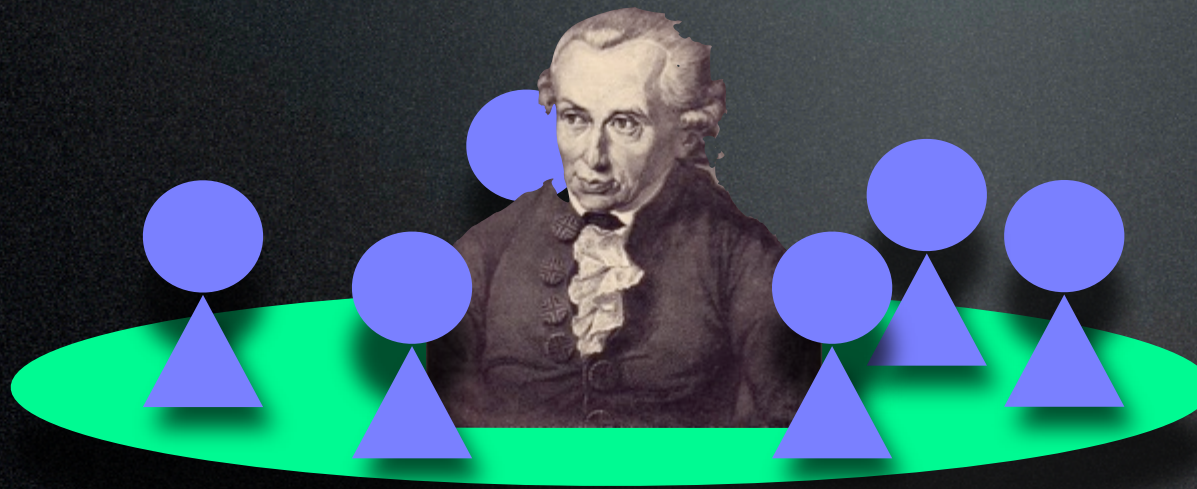
3. 一般的観点＝身近な人々の視点

「われわれは、人物の道徳的性
格に関して判断を下すために、
その人物が活動する、狭い範囲
の仲間たち (narrow circle) へ
と、自分の視線を限定する。」

[引用-3]

3. 一般的觀點

3. 一般的観点



narrow circle

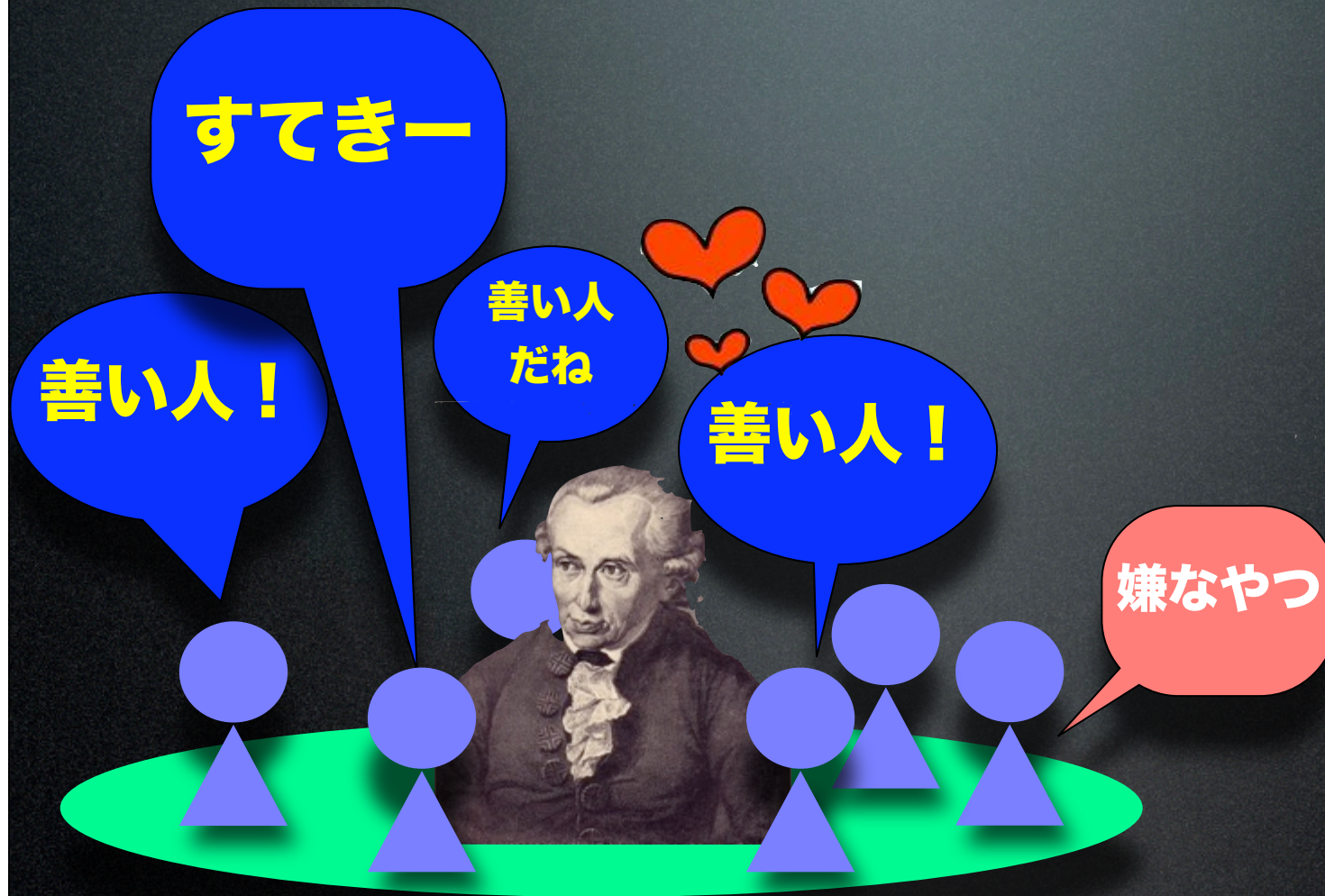
ケーニヒスベルク

16



見てる人
デービッドさん
スコットランド在住

3. 一般的観点

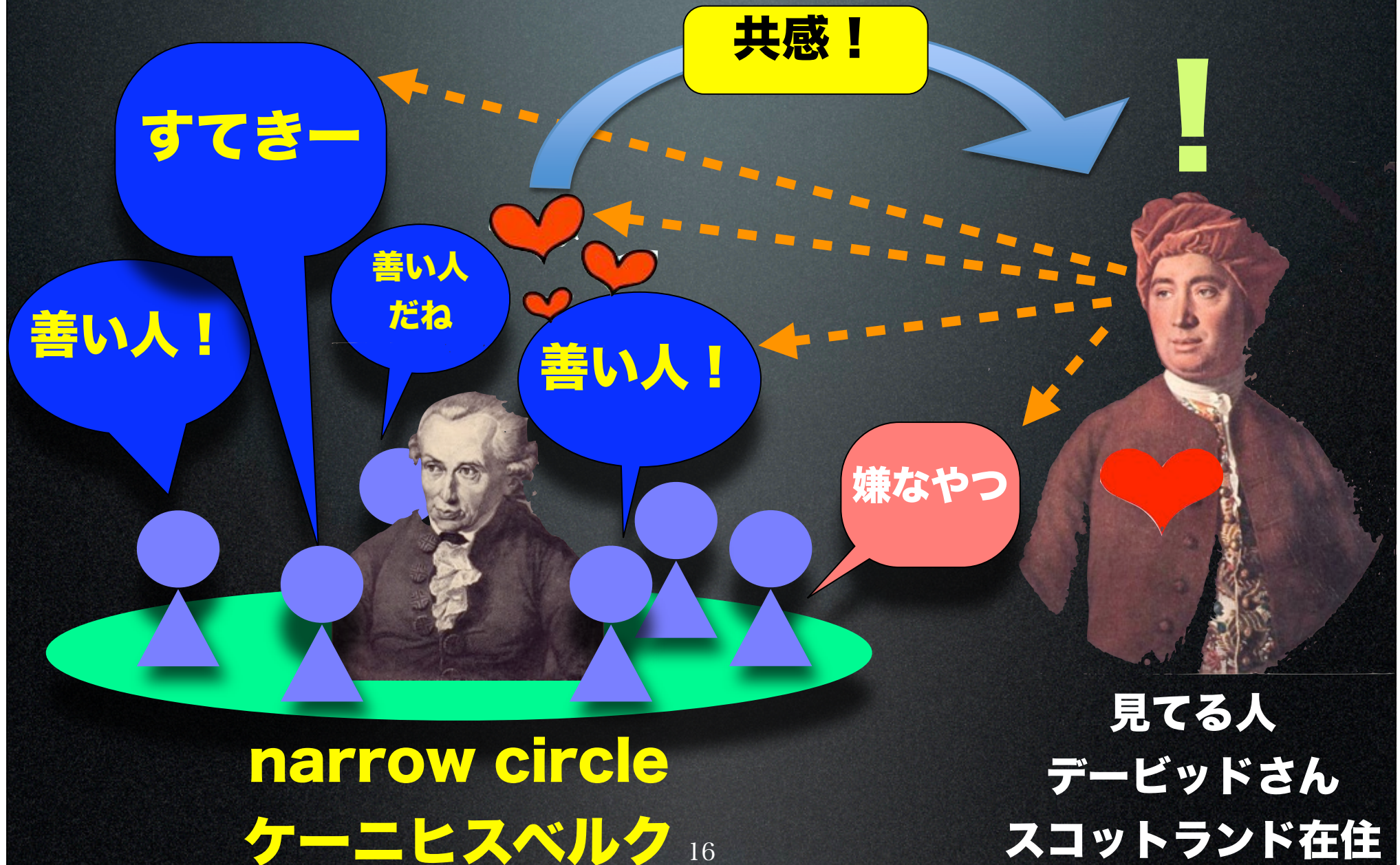


narrow circle
ケーニヒスベルク

16

見てる人
デービッドさん
スコットランド在住

3. 一般的観点



3. 一般的観点

「この**共通の観点(=一般的観点)**から彼らはその対象を眺め、この観点によってその対象は、**観察者全員にとって同じように見える**のである。」[引用-4]

3. 一般的観点

客観性の確保

「**客観性**とは、**一般的**
観点から見たときの対象を
眺め、この観点によってその
対象は、**観察者全員にとって**
同じように見えるのであ
る。」[引用-4]

3. 一般的觀點

3. 一般的観点

道德の4つの源泉

3. 一般的観点

道德の4つの源泉

1. 他者にとって有用

3. 一般的観点

道德の4つの源泉

1. 他者にとって有用
2. その人 自身にとって有用

3. 一般的観点

道德の4つの源泉

1. 他者にとって有用
2. その人 自身にとって有用
3. 他者にとって快適

3. 一般的観点

道德の4つの源泉

1. 他者にとって有用
2. その人 自身にとって有用
3. 他者にとって快適
4. その人 自身にとって快適

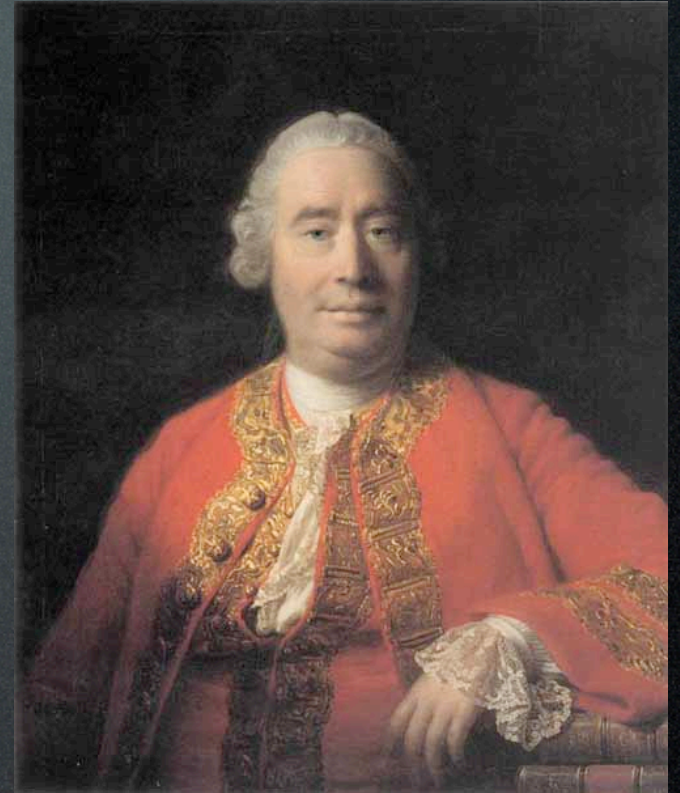
3. 一般的観点

道德の4つの源泉

1. 他者にとって有用
2. その人 自身にとって有用
3. 他者にとって快適
4. その人 自身にとって快適

評価される人の道德的性格(人柄)の影響を一番よく受けていて、評価される人のことを一番よく分かっているのは、**評価される人の周りにいる「人々」**に他ならない！

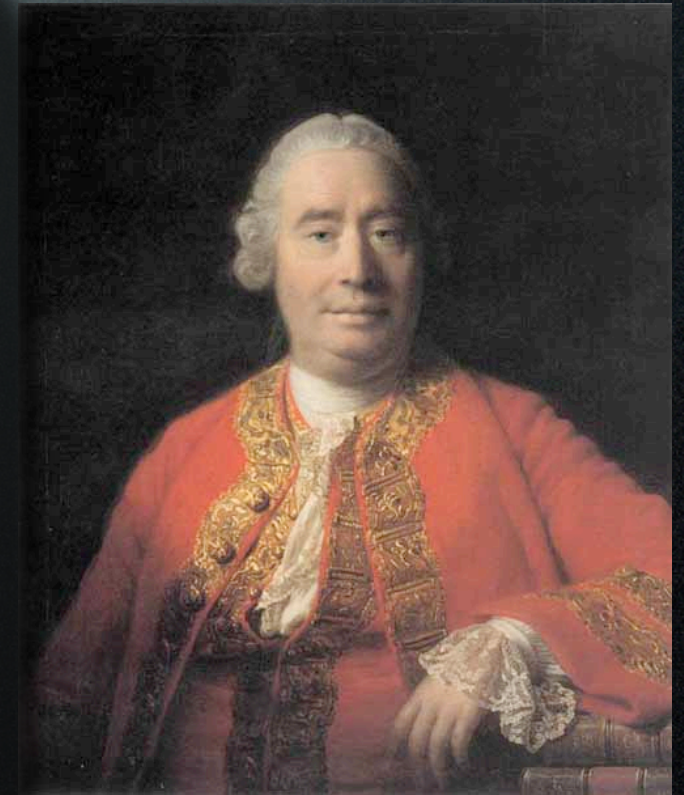
まとめ



ヒューム

まとめ

1. 道德判断 = 一般的観点から性格を眺めたときには是認・否認の感情を抱くこと
2. 実際に下されている判断が、道德判断の基準
3. 道德判断を下すための「他者」の重要性



ヒューム

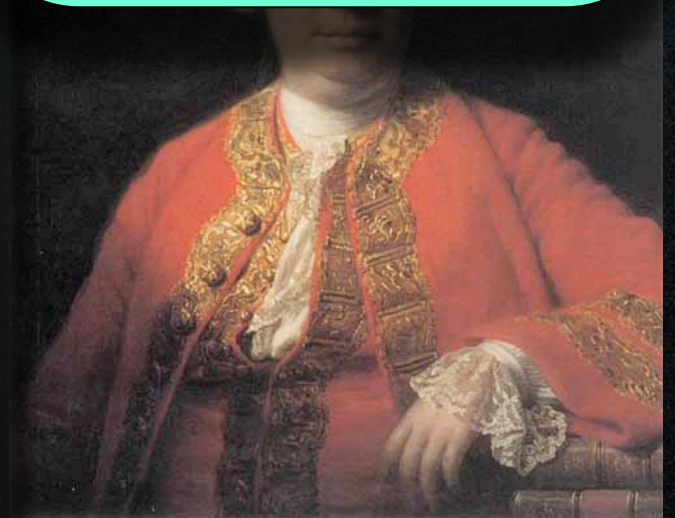
まとめ

1. 道德判断 = 一般的観点から性格を眺めたときには是認・否認の感情を抱くこと

2. 実際に下されている判断が、道德判断の基準

3. 道德判断を下すための「他者」の重要性

**主観主義的、
ある程度の客観
性は確保**



ヒューム

まとめ

1. 道德判断 = 一般的観点から性格を眺めたときには是認・否認の感情を抱くこと

2. 実際に下されている判断が、道德判断の基準

3. 道德判断を下すための「他者」の重要性

**主観主義的、
ある程度の客観
性は確保**

**普遍的・理
想的観点とは全
く違う！！！！**

ヒューム

まとめ

1. 道德判断 = 一般的観点から性格を眺めたときには是認・否認の感情を抱くこと

2. 実際に下されている判断が、道德判断の基準

3. 道德判断を下すための「他者」の重要性

**主観主義的、
ある程度の客観
性は確保**

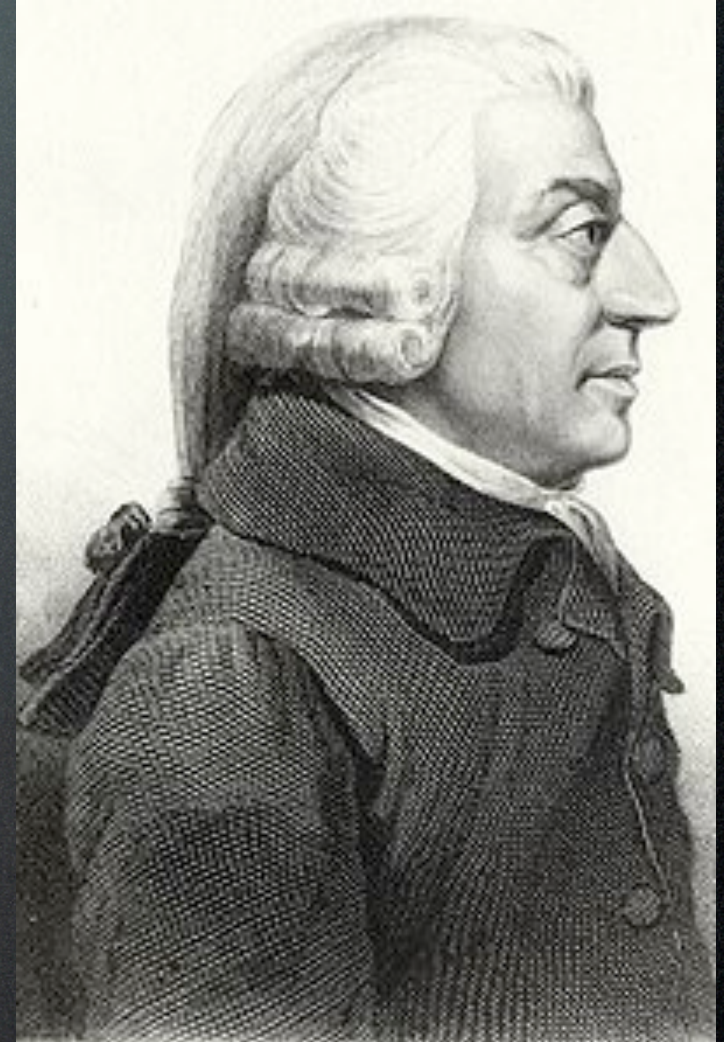
**普遍的・理
想的観点とは全
く違う!!!**

**他律の
倫理学？**

問題点

- 倫理学の範囲が狭い？
(道徳判断の基準で、やっぱり「普遍的なもの」では？)
- 多数者の専制を容認？
(道徳って結局多数決で決まる？ 冤罪の危険性？)

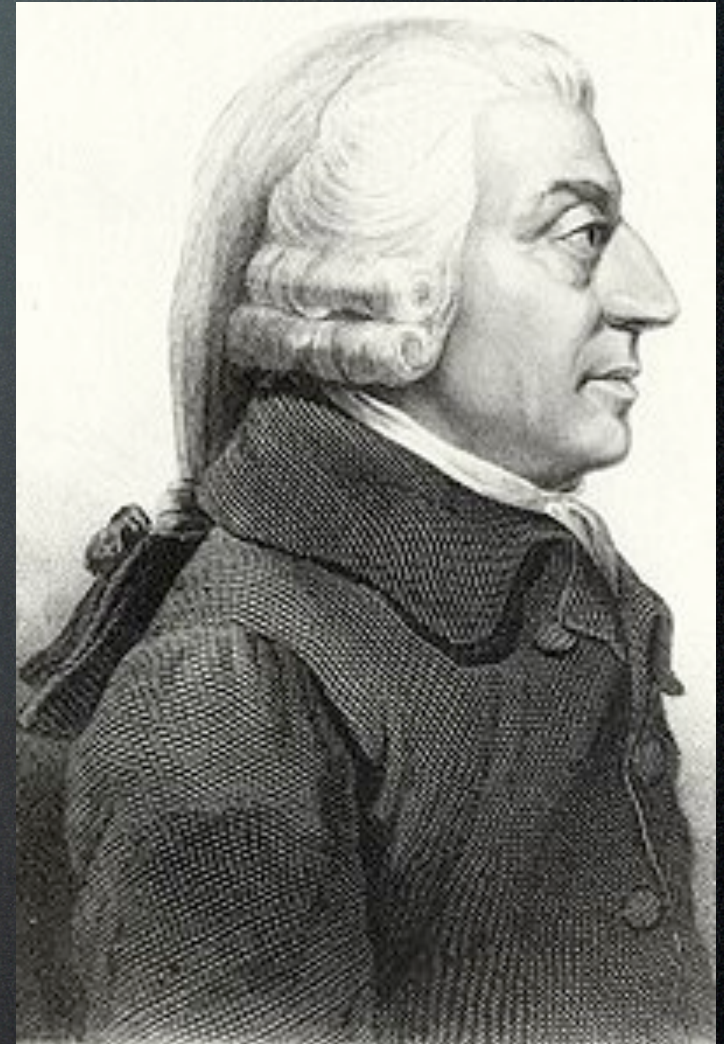
ヒューム道德哲学の継承・発展



ヒューム道德哲学の継承・発展

アダム・スミス[1723-90]

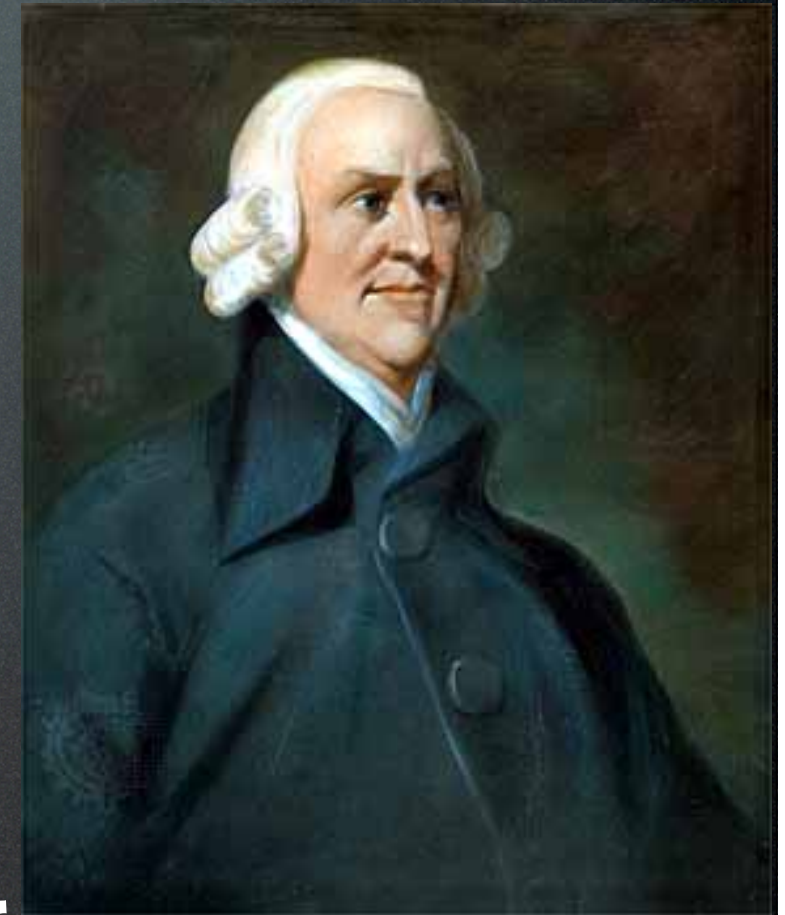
- 18世紀スコットランド啓蒙思想の中心的人物。道德哲学者にして古典経済学の父。
- 1759年 『道德感情論』
- 1776年 『国富論』
- グラスゴー大学の学生時代にヒュームの『人間本性論』をこっそり読んでいたところを見つけて怒られる。



ヒューム道德哲学の継承・発展

アダム・スミス[1723-90]

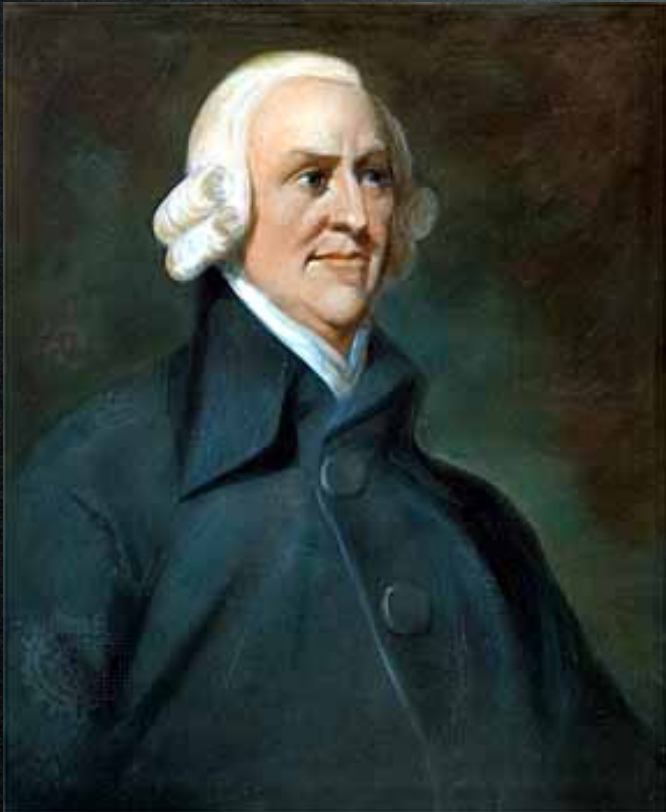
- 18世紀スコットランド啓蒙思想の中心的人物。道德哲学者にして古典経済学の父。
- 1759年 『道德感情論』
- 1776年 『国富論』
- グラスゴー大学の学生時代にヒュームの『人間本性論』をこっそり読んでいたところを見つけて怒られる。



アダム・スミスと言えば

アダム・スミスと言えば

『国富論』 [1776]が有名

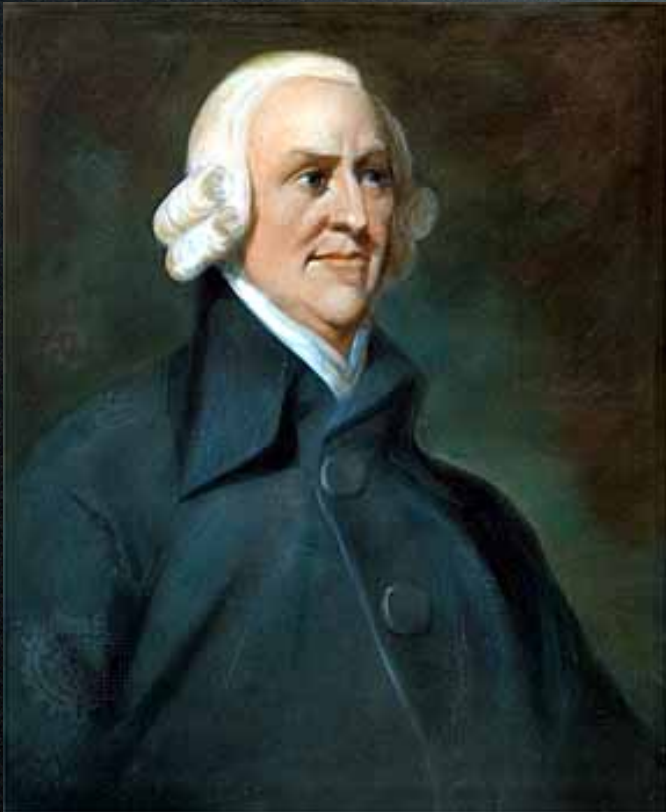


アダム・スミス

アダム・スミスと言えば

『国富論』 [1776]が有名

キーワード : 「**神の見えざる手**」



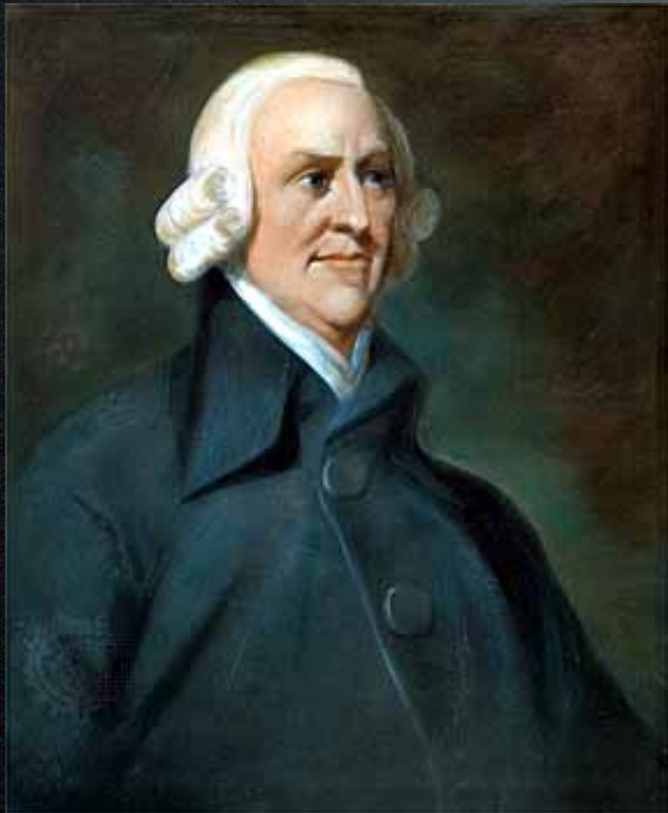
アダム・スミス

アダム・スミスと言えば

『国富論』 [1776]が有名

キーワード : 「**神の見えざる手**」

⇒ 政府による市場の規制を撤廃し、競争を促進することで豊かで強い国を作るべき！ (**自由放任主義**)



アダム・スミス

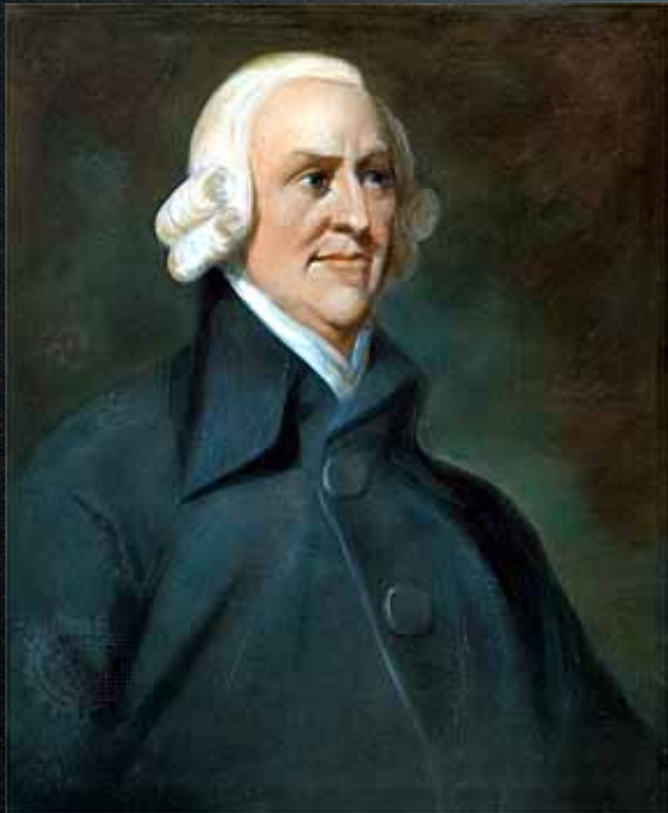
アダム・スミスと言えば

『国富論』 [1776]が有名

キーワード : 「**神の見えざる手**」

⇒ 政府による市場の規制を撤廃し、競争を促進することで豊かで強い国を作るべき！ (**自由放任主義**)

◆ **経済学者**のイメージ



アダム・スミス

最近出たアダム・スミス本

最近出たアダム・スミス本



アダム・スミス
堂目 卓生[2008]

- 第30回サントリー学芸
賞受賞

- 『**道徳感情論**』における
スミスの人間観と社会観
を考察し、その上で『国
富論』を検討すること
で、**これまでとは異なっ
たスミス像**を示す

最近出たアダム・スミス本

・第30回サントリー学芸
賞受賞

『**道徳感情論**』
に注目！

『**道徳感情論**』における
スミスの人間観と社会観
を考察し、その上で『国
富論』を検討すること
で、**これまでとは異なっ
たスミス像**を示す

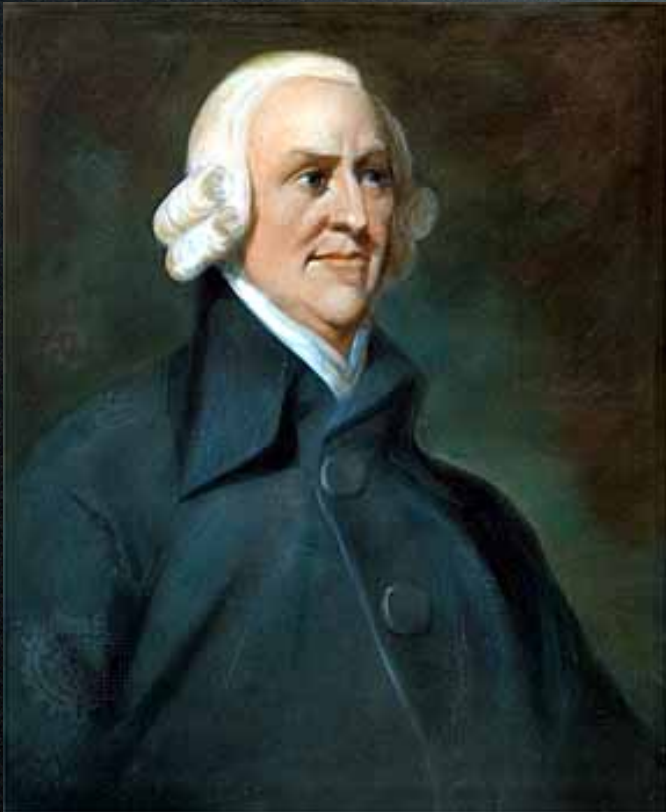
アダム・スミス
堂目 卓生[2008]

アダム・スミスの倫理思想？

アダム・スミスの倫理思想？

キーワード

- ◆ 「共感」に基づく道德感情説
- ◆ 「想像上の立場交換」
- ◆ 「公平な観察者」

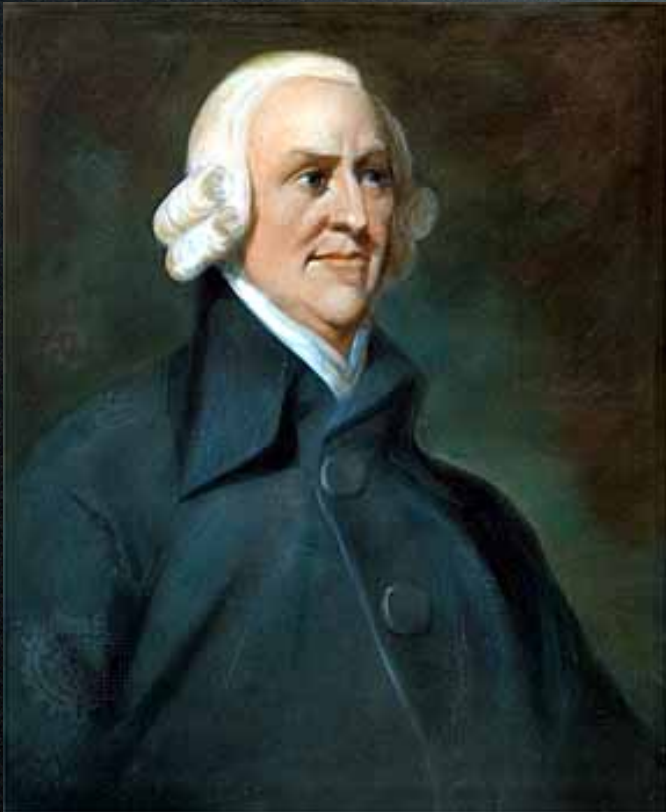


アダム・スミス

アダム・スミスの倫理思想？

キーワード

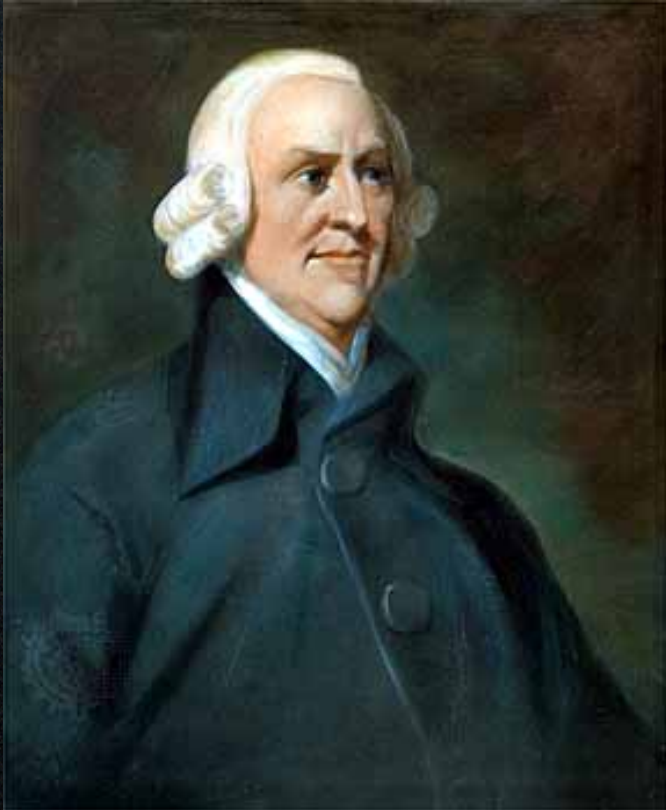
- ◆ 「共感」に基づく道德感情説
- ◆ 「想像上の立場交換」
- ◆ 「公平な観察者」



アダム・スミス

「共感」とか「道德感情」とか、ヒュームの焼き直しに過ぎないんじゃないの？

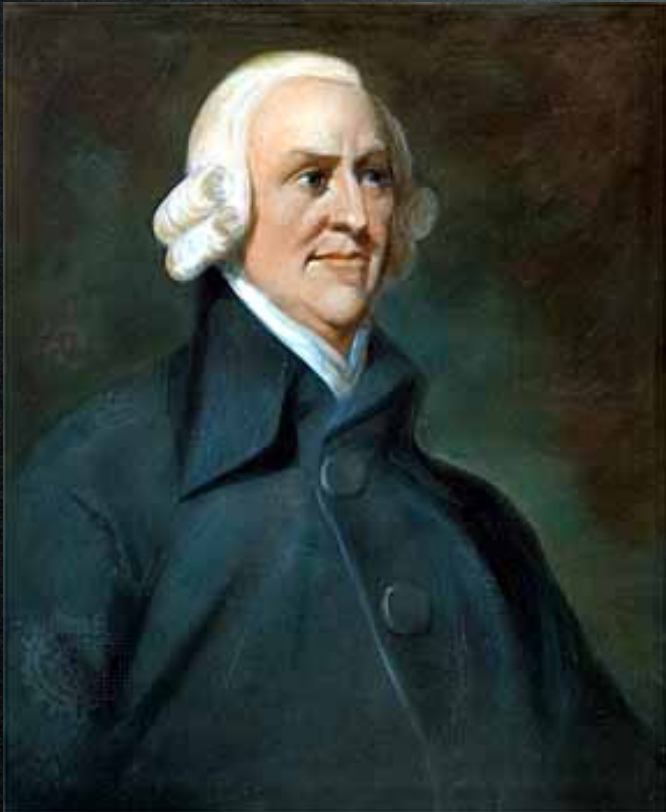
アダム・スミスの共感論[1]



アダム・スミス

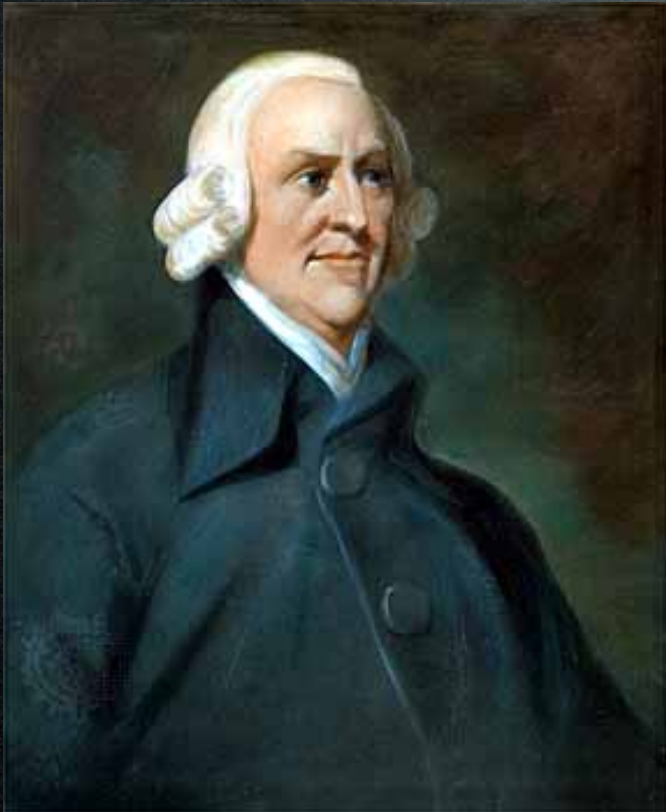
アダム・スミスの共感論[1]

◆人間はみんな、他人の境遇に
関心を持つ！



アダム・スミス

アダム・スミスの共感論[1]

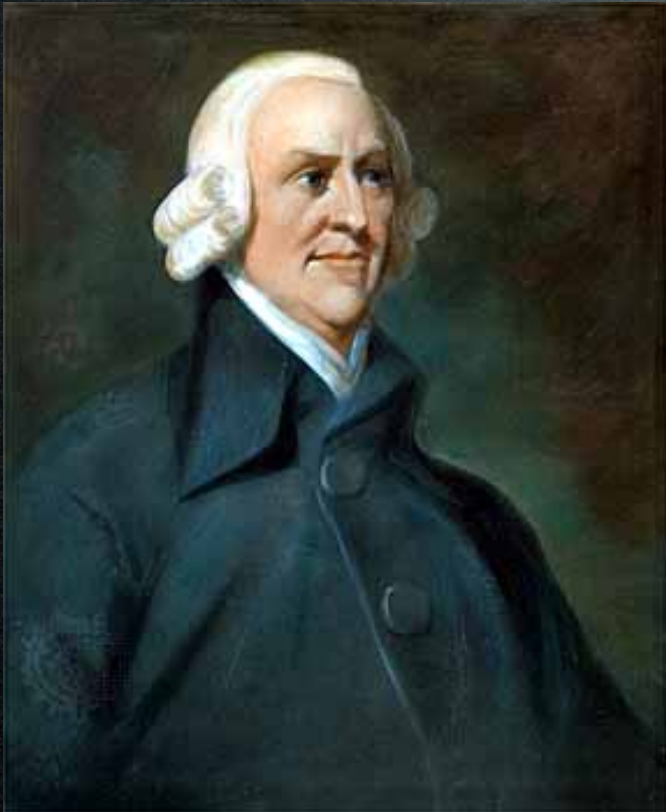


アダム・スミス

◆人間はみんな、他人の境遇に
関心を持つ！

◆そして、他人と同じ感情を自
分も抱こう(**同情しよう**)とする

アダム・スミスの共感論[1]



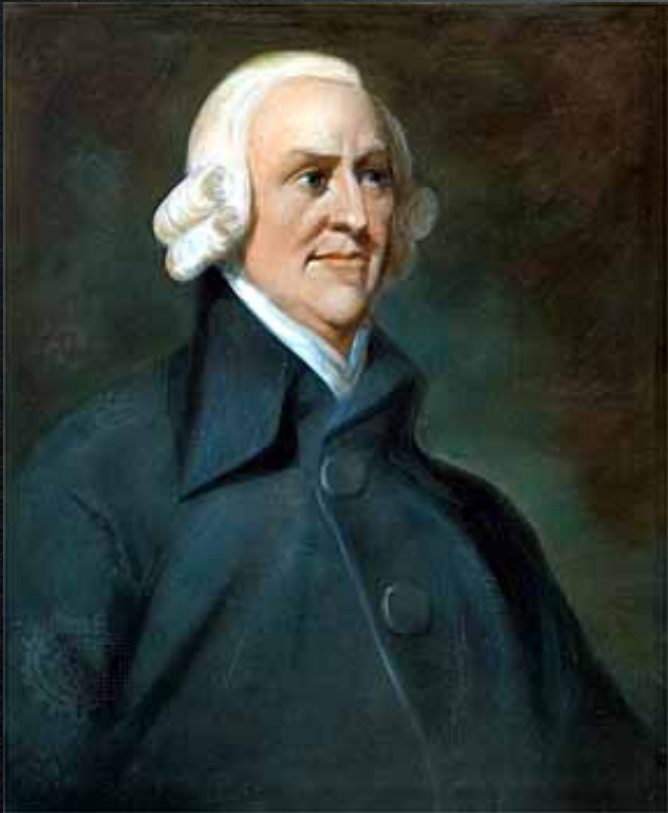
アダム・スミス

◆人間はみんな、他人の境遇に
関心を持つ！

◆そして、他人と同じ感情を自
分も抱こう(**同情しよう**)とする

◆でも、他人の胸中を直接覗き
込むことはできない...

アダム・スミスの共感論[1]



アダム・スミス

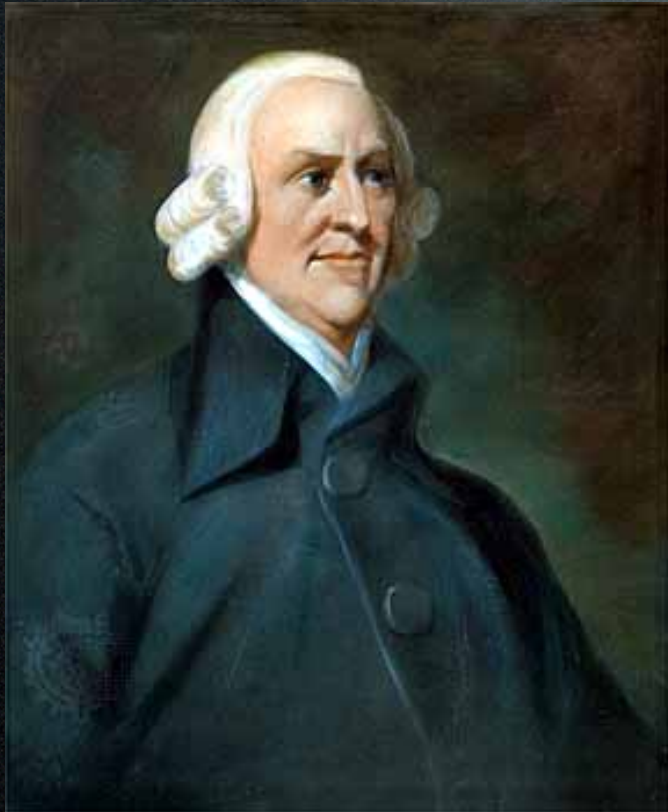
◆人間はみんな、他人の境遇に
関心を持つ！

◆そして、他人と同じ感情を自
分も抱こう(**同情しよう**)とする

◆でも、他人の胸中を直接覗き
込むことはできない...

⇒想像力を働かせて「共感」！

アダム・スミスの共感論[1]



アダム・スミス

◆人間はみんな、他人の境遇に
関心を持つ！

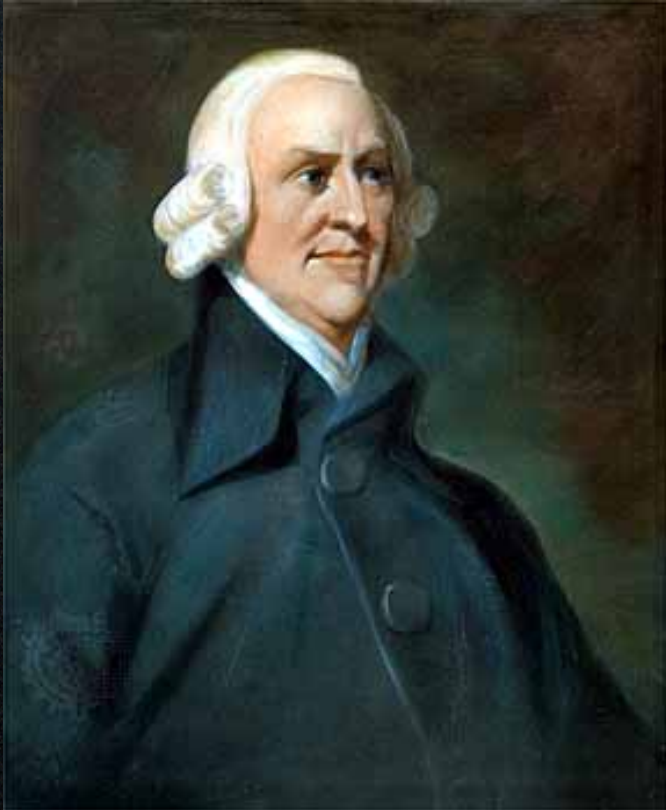
◆そして、他人と同じ感情を自
分も抱こう(**同情しよう**)とする

◆でも、他人の胸中を直接覗き
込むことはできない...

⇒想像力を働かせて「共感」！

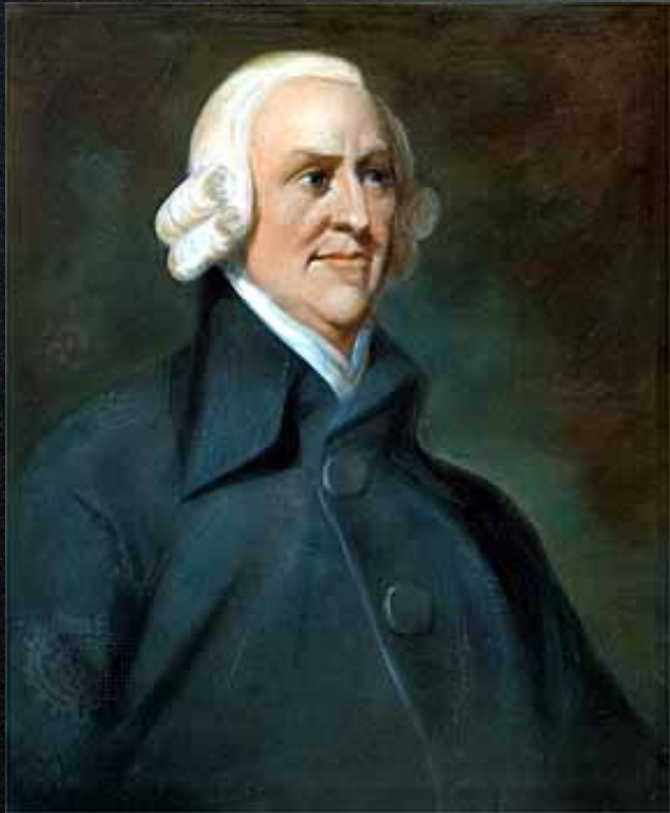
想像上の立場交換！

アダム・スミスの共感論[1]



アダム・スミス

アダム・スミスの共感論[1]

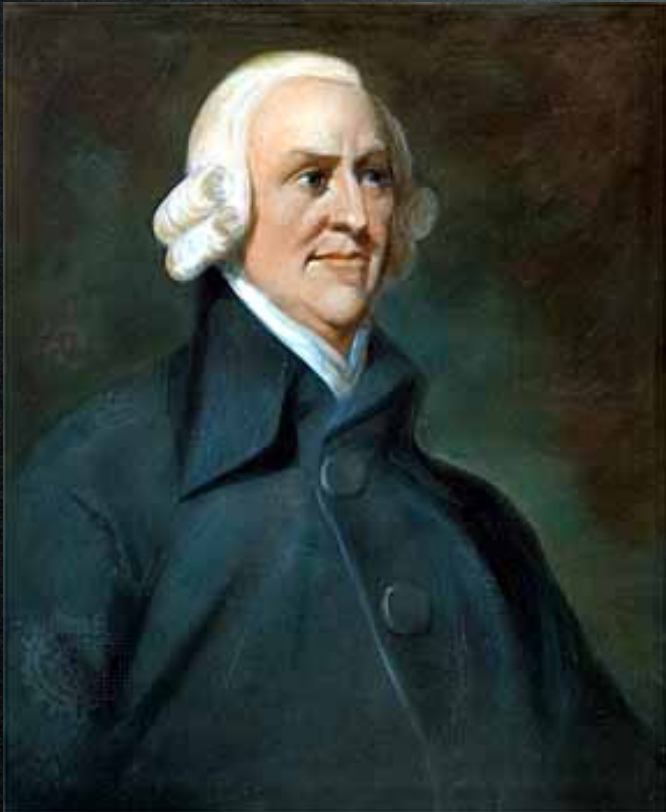


アダム・スミス

われわれは、道德判断を下すとき、想像の中で、自分を**他人の状況**に置いてみる。つまり、自分が**その人と同じ状況下にいたら**、どのような感情を持つだろうか？どのような行為をするだろうか？と想像する。

アダム・スミスの共感論[1]

Point !

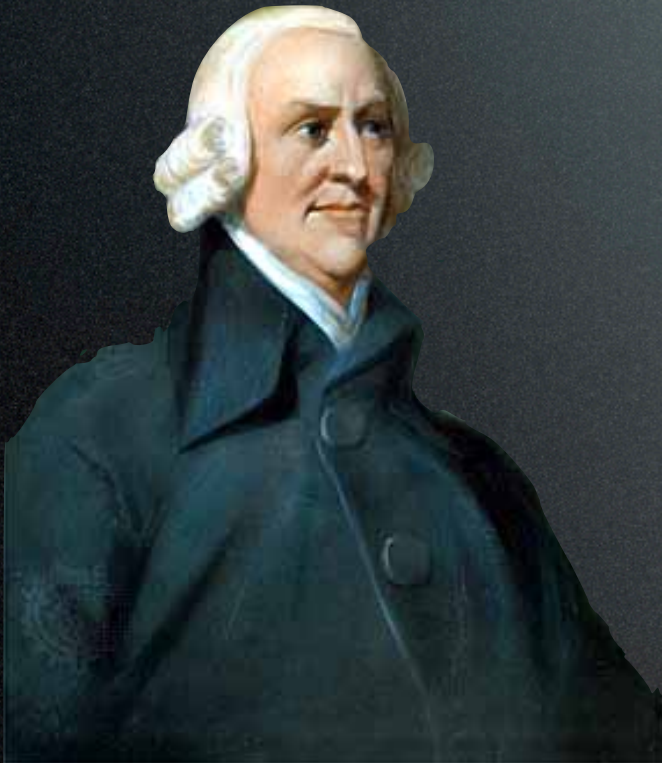


アダム・スミス

われわれは、道徳判断を下すとき、想像の中で、自分を**他人の状況**に置いてみる。つまり、自分が**その人と同じ状況下にいたら**、どのような感情を持つだろうか？どのような行為をするだろうか？と想像する。

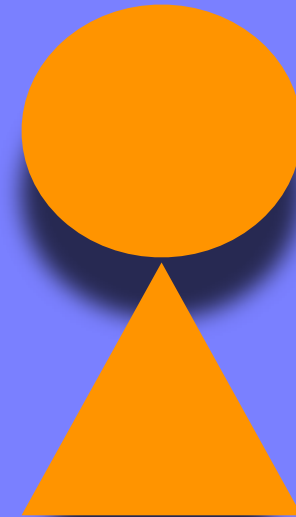
想像上の立場交換

想像上の立場交換



観察者

状況・立場



行為者

想像上の立場交換

！
状況・立場



「共感」の違い：ヒュームとスミス

ヒュームの場合

「共感」する相手と、**同じような感情**を獲得する。

スミスの場合

想像上の立場交換で獲得する感情は、**相手の感情と一致するとは限らない。**

「共感」の違い：ヒュームとスミス

ヒュームの場合

「共感」する相手と、同じような感情を獲得する。

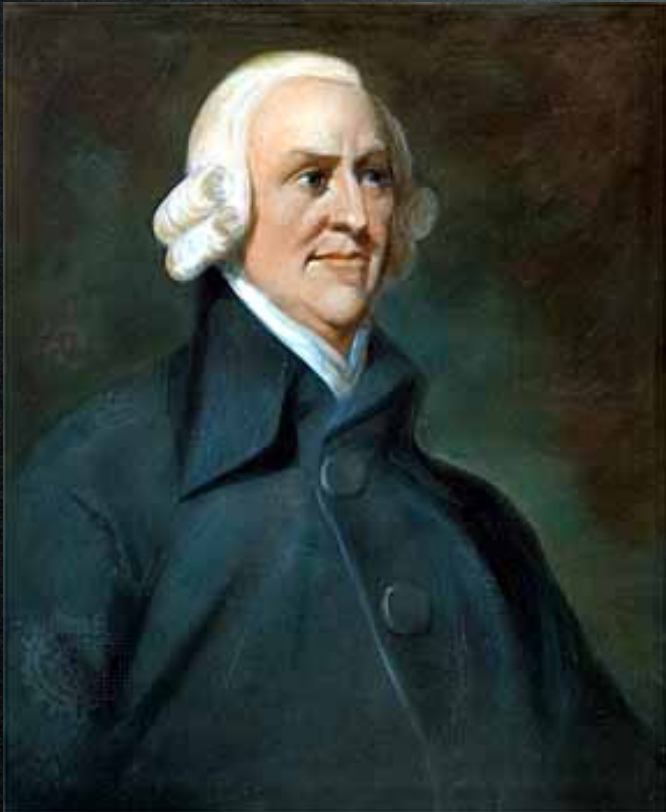
ここがPoint！

想像上の立場で獲得する感情は、相手の感情と一致するとは限らない。

アダム・スミスの共感論 [2]

アダム・スミスの共感論 [2]

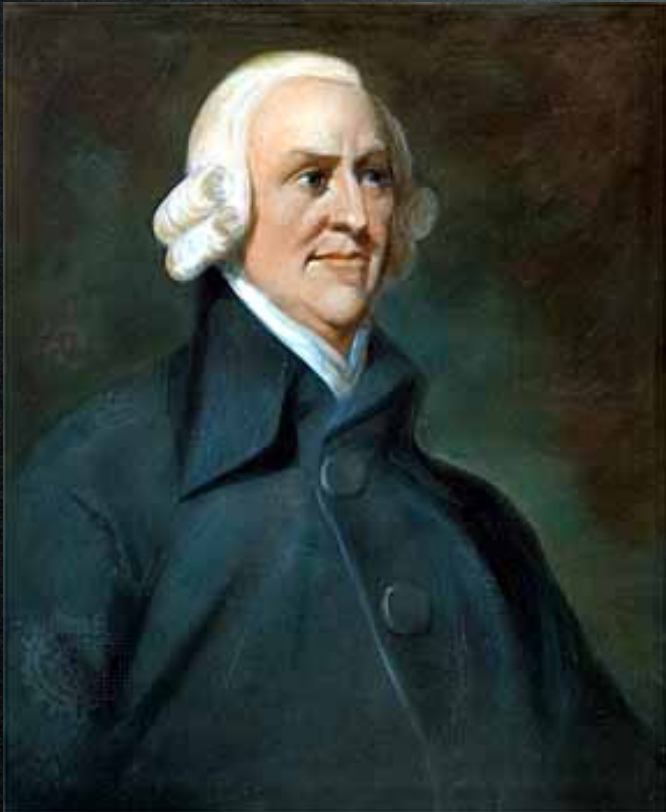
なぜPoint！かと言うと..



アダム・スミス

アダム・スミスの共感論 [2]

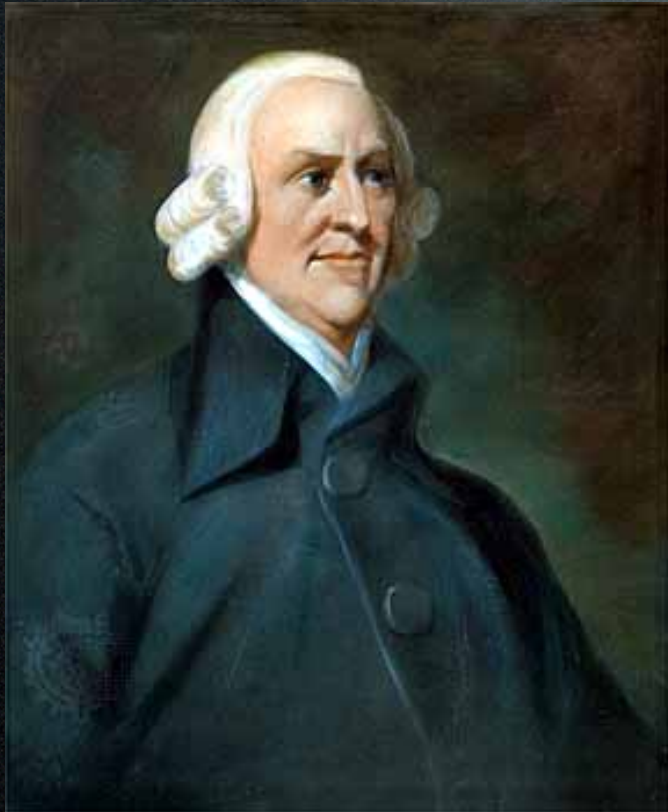
なぜPoint! かと言うと..



アダム・スミス

想像上の立場交換をして感情を獲得した後、
「想像された自分の感情」と、「実際に観察される他人の感情」とを**比較**する。

アダム・スミスの共感論 [2]



アダム・スミス

観察者は、自分の感情[想像]と他人の感情[実際]とを比べてみた結果、両者がほぼ一致する場合には、他人の感情を「適切なもの」として「是認」し、一致しない場合には「不適切なもの」として「否認」する。

アダム・スミスの共感論 [2]



アダム・スミス

観察者は、自分の感情[想像]と他人の感情[想像]とを比べて、両者がほぼ一致する場合に他人の感情を「適切なもの」として「是認」し、一致しない場合には「不適切なもの」として「否認」する。

道徳感情

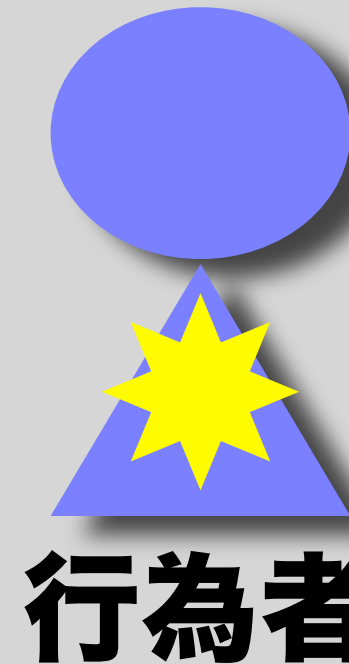
道徳感情

アダム・スミスの共感論 [2]

アダム・スミスの共感論 [2]



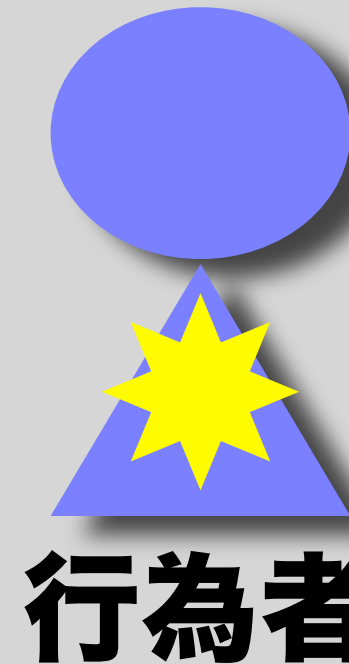
状況・立場



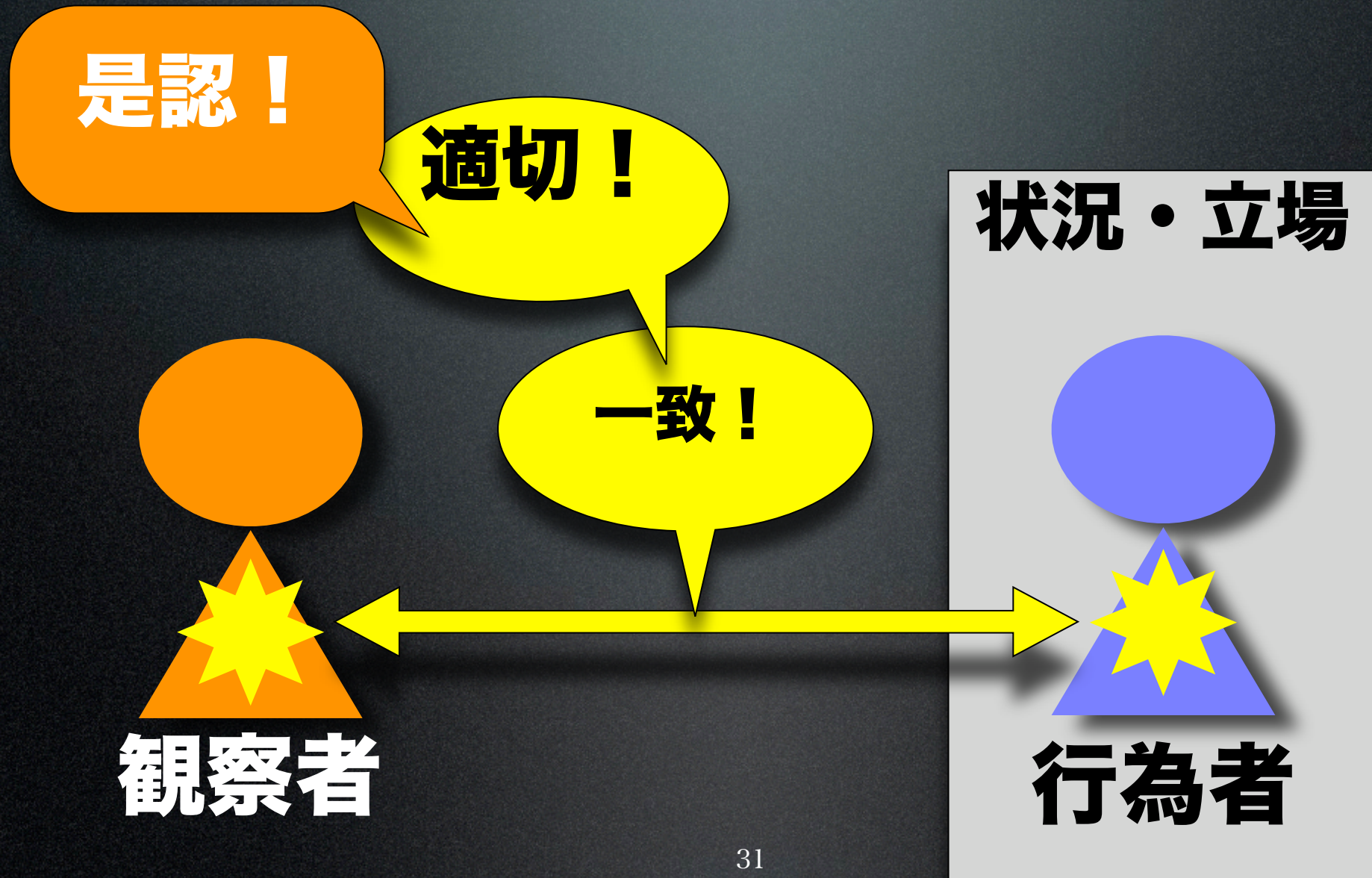
アダム・スミスの共感論 [2]



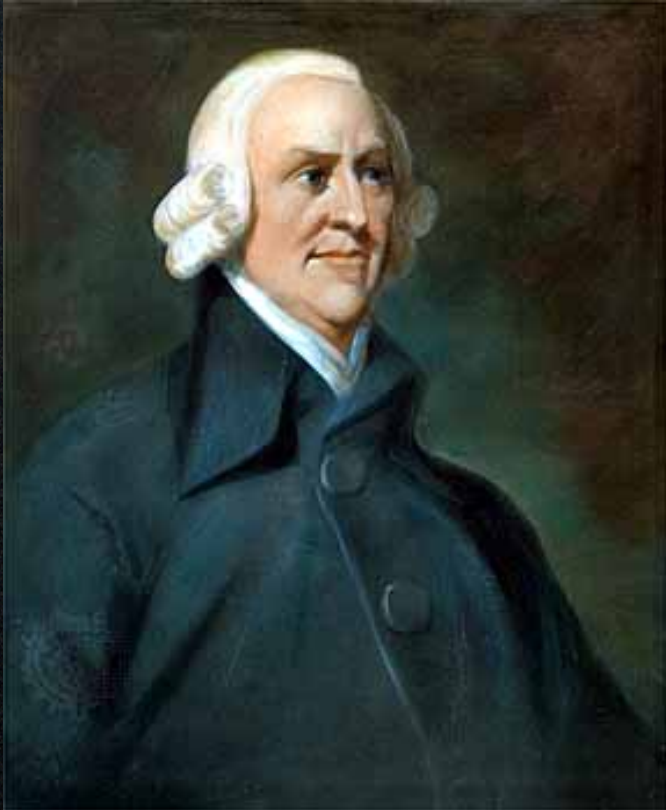
状況・立場



アダム・スミスの共感論 [2]

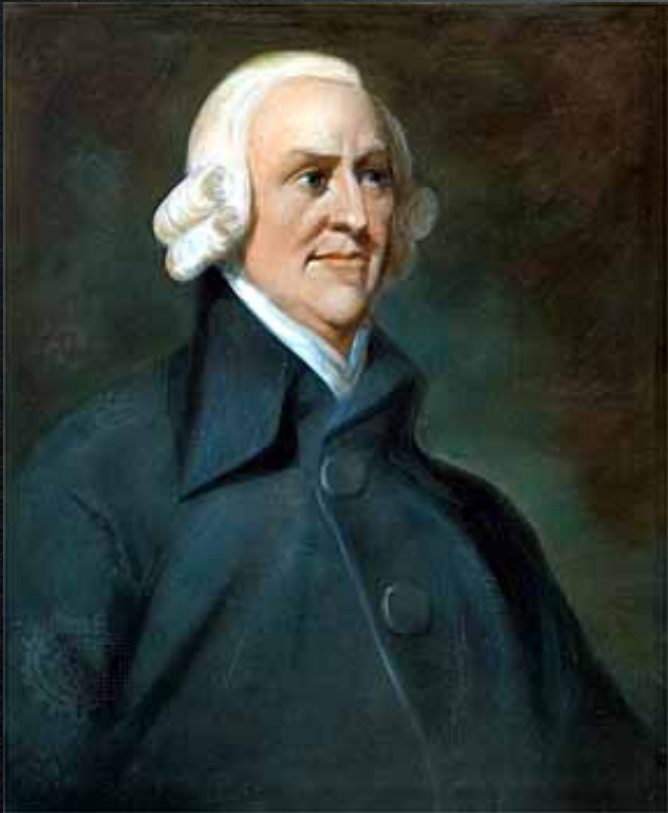


アダム・スミスの共感論 [3]



アダム・スミス

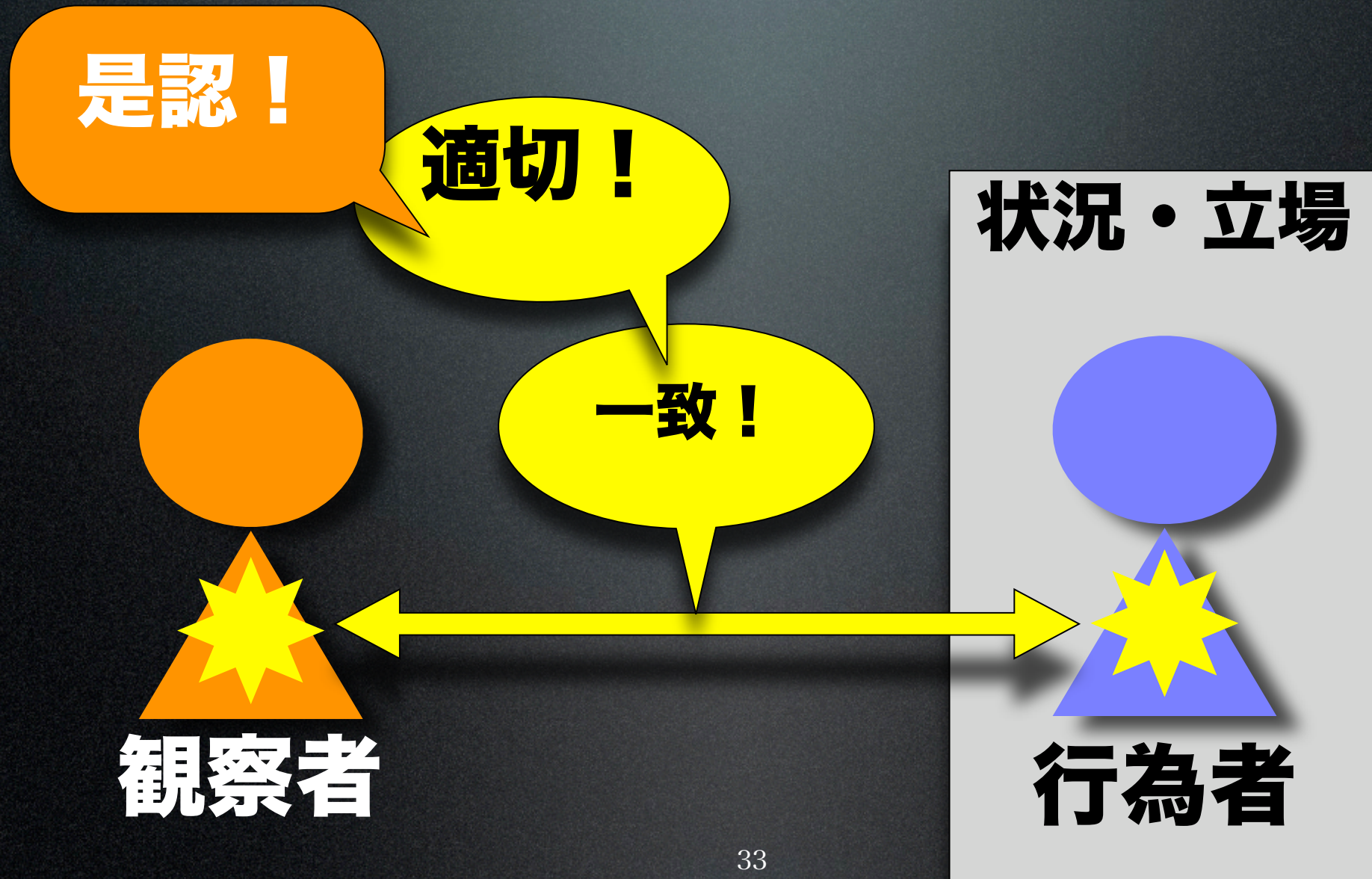
アダム・スミスの共感論 [3]



アダム・スミス

さらに、相手の感情との
「比較」を通じて観察者が
獲得した「是認」の感情が
相手に伝わると、相手は自
分の感情や行為が自分以外
の人に認められたことを
知って快い気持ちになる。

アダム・スミスの共感論 [3]



アダム・スミスの共感論 [3]

是認！

「あはっ」(快)

是認の気持ちの伝達

観察者

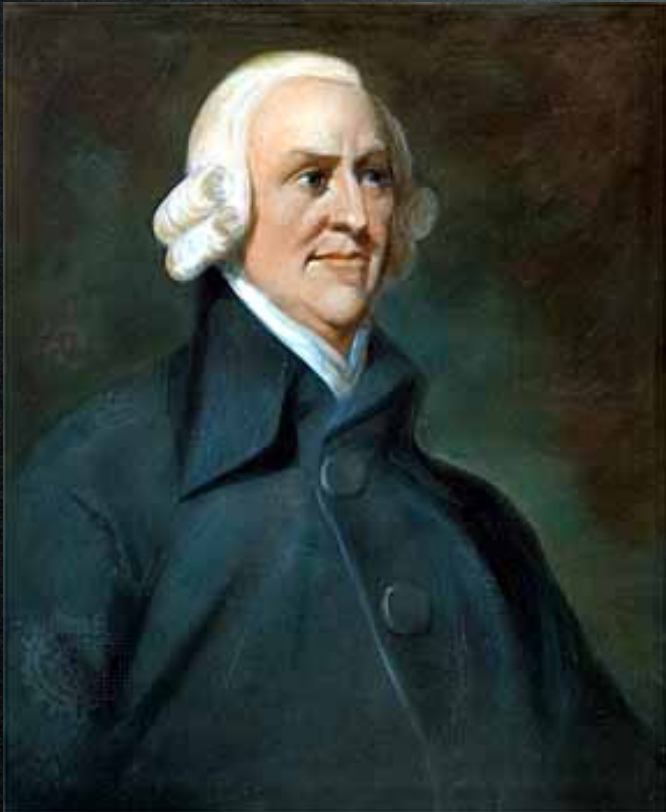
状況 立場

行為者

他人の評価から、自分の評価へ

他人の評価から、自分の評価へ

◆自分には**他人への関心**がある

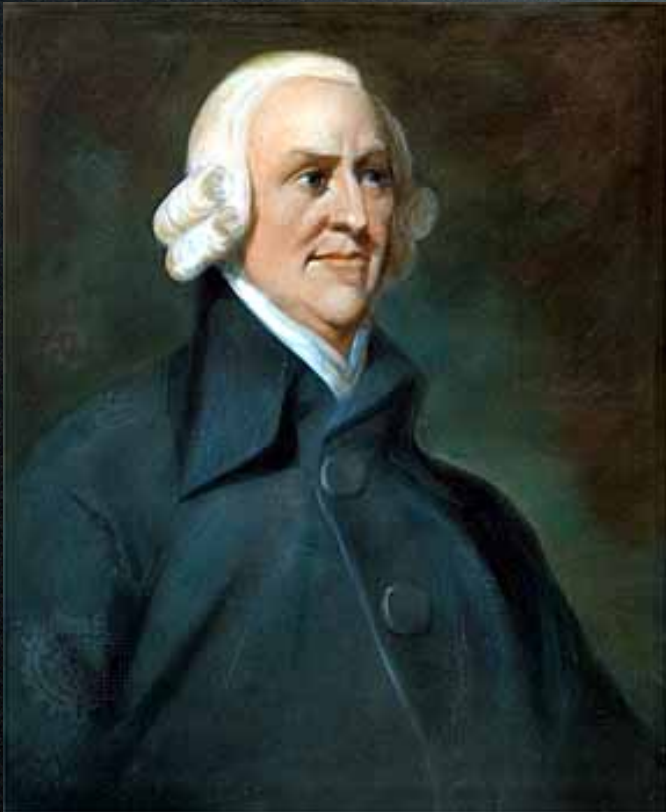


アダム・スミス

他人の評価から、自分の評価へ

◆自分には**他人への関心**がある

⇒ 他人に対する道徳判断



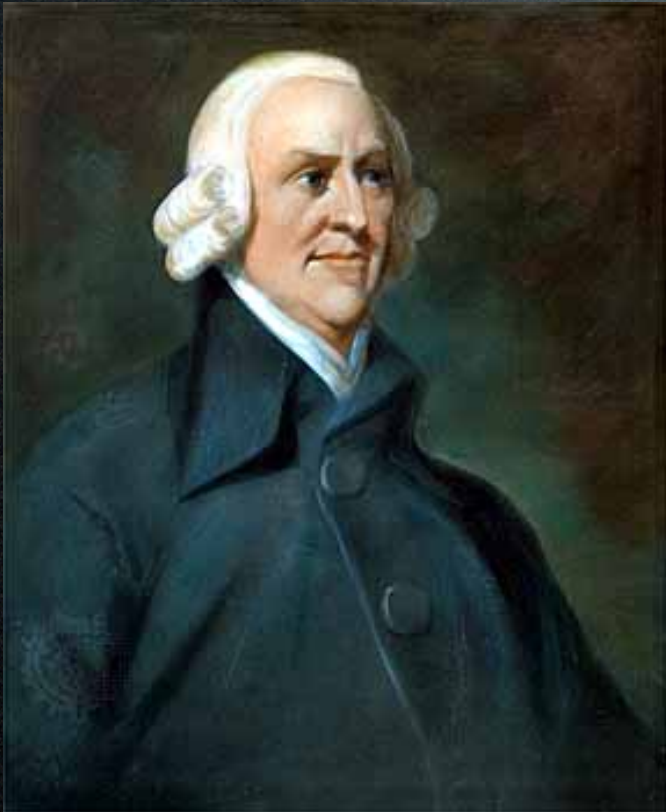
アダム・スミス

他人の評価から、自分の評価へ

◆自分には**他人への関心**がある

⇒ 他人に対する道徳判断

◆他人も**自分に関心**がある！



アダム・スミス

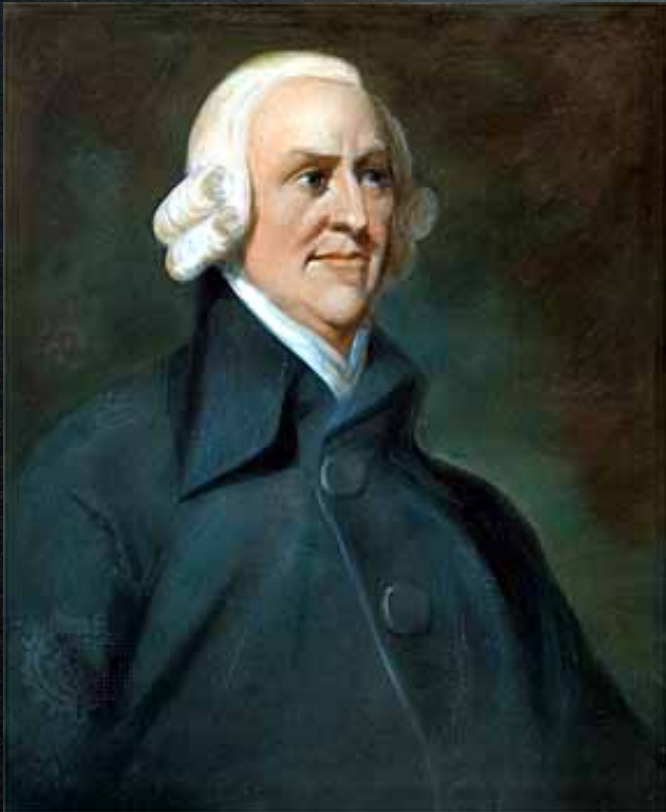
他人の評価から、自分の評価へ

◆自分には**他人への関心**がある

⇒ 他人に対する道徳判断

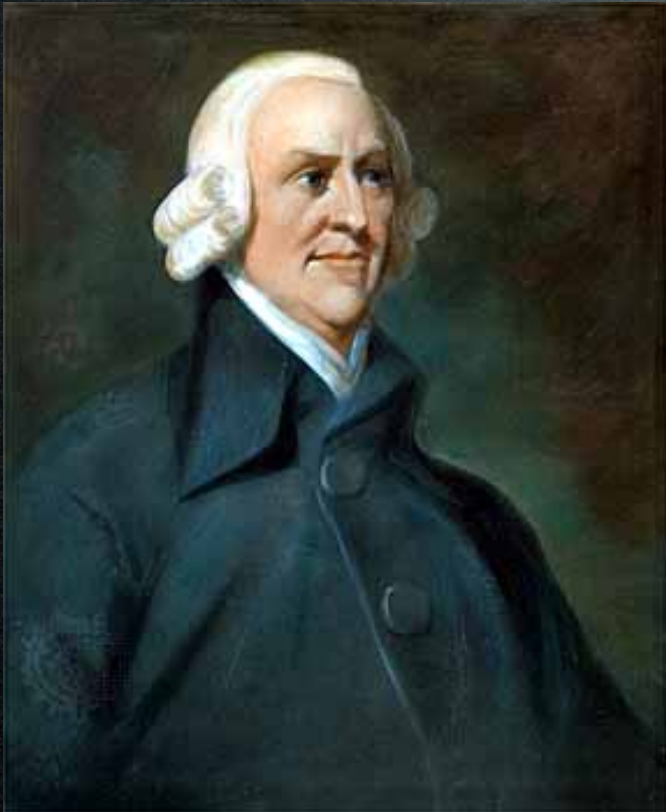
◆他人も**自分に関心**がある！

⇒ 他人も自分に対して道徳判断を下している！



アダム・スミス

他人の評価から、自分の評価へ



アダム・スミス

◆自分には**他人への関心**がある

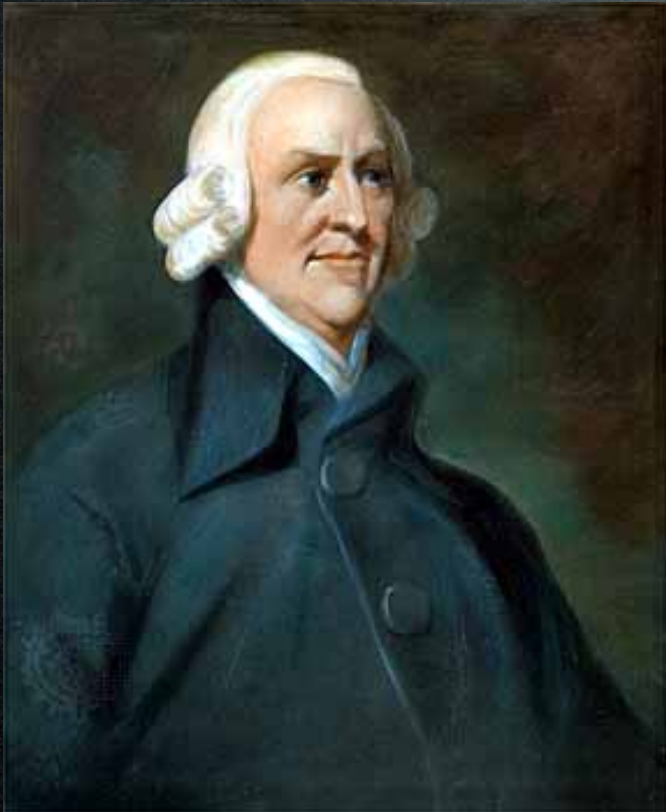
⇒ 他人に対する道徳判断

◆他人も**自分に関心**がある！

⇒ 他人も自分に対して道徳判断を下している！

◆自分は、**他人の目にどう映っているんだろう？**

他人の評価から、自分の評価へ



アダム・スミス

◆自分には**他人への関心**がある

⇒ 他人に対する道徳判断

◆他人も**自分に関心**がある！

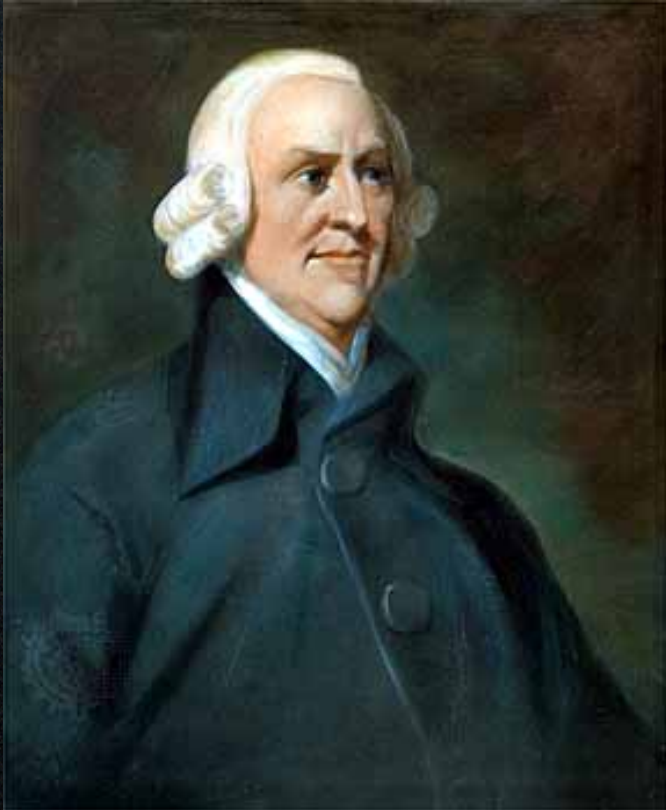
⇒ 他人も自分に対して道徳判断を下している！

◆自分は、他人の目にどう映っているんだろう？

評価対象の重点が自分自身へ！

スミスでも生じる問題

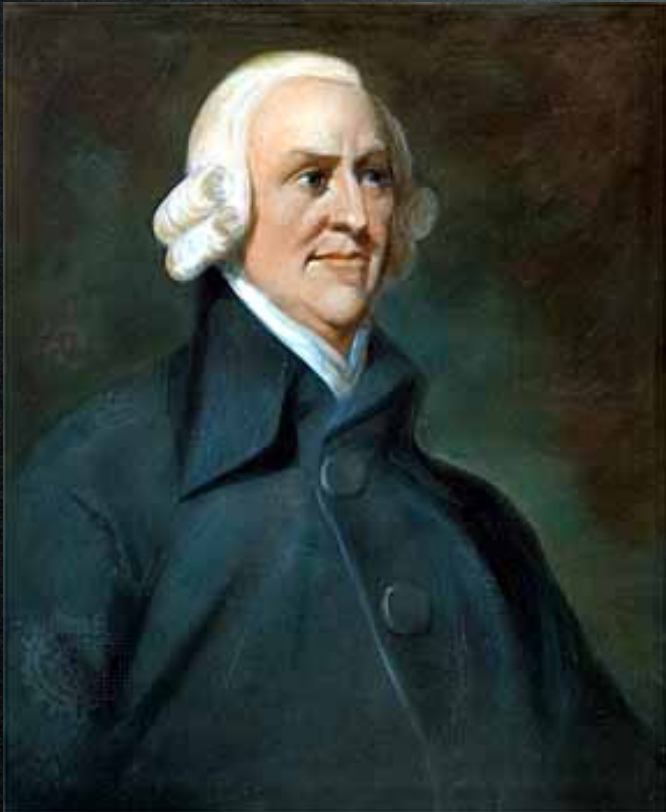
スミスでも生じる問題



アダム・スミス

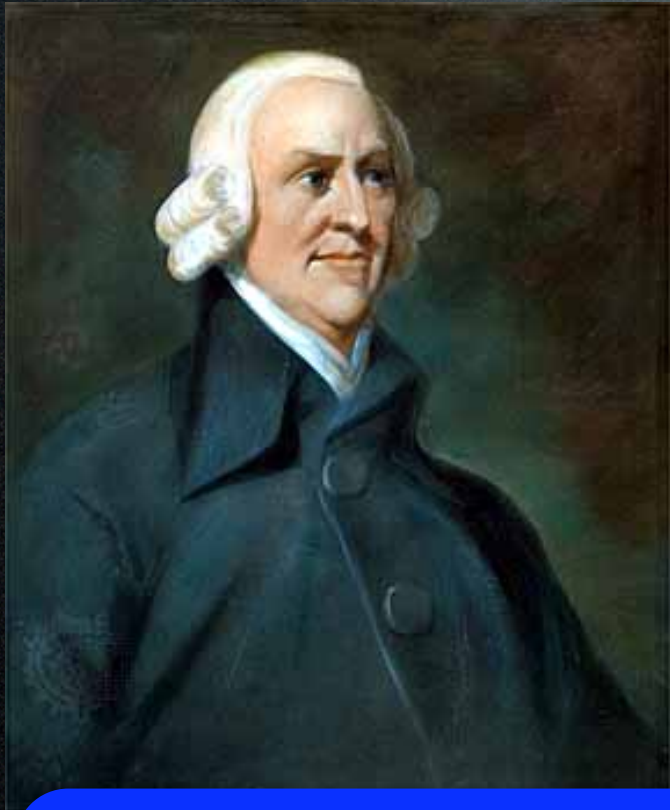
スミスでも生じる問題

われわれは、他人から是認されることを願う結果、自分の感情や行為を他人が是認できるものに合わせようとする。



アダム・スミス

スミスでも生じる問題



われわれは、他人から是認されることを願う結果、自分の感情や行為を他人が是認できるものに合わせようとする。

でもその「他人」が誰でもよいわけではない！

では、誰の基準に合わせるのか？

スミスでも生じる問題

われわれは、他人から是認されることを願う結果、自分の感情や行為を他人が是に合わ

ヒュームのときと同じ
「客観性」の問題！

でもその「他人」が誰だもよいわけではない！

では、誰の基準に合わせるのか？



誰の基準 が 道德判断の基準 ？

◆ 親や友人など、親しい人 ？

⇨ そのような人たちは、私に対して
愛着や好意を持っているから**不適切**！

◆ 自分に対して明らかな敵意をもっている人？

⇨ その判断も公平さを欠いたものであるから**不適切**！

誰の基準 が 道德判断の基準 ？

◆ 親や友人など、親しい人 ？

⇨ そのような人たちは、私に対して

愛着

では、道德判断の基

礎！

◆

準はどこにあるの？

もっ

てい

⇨ その判断も公平さを欠いたもので

あるから不適切！

公平な第三者

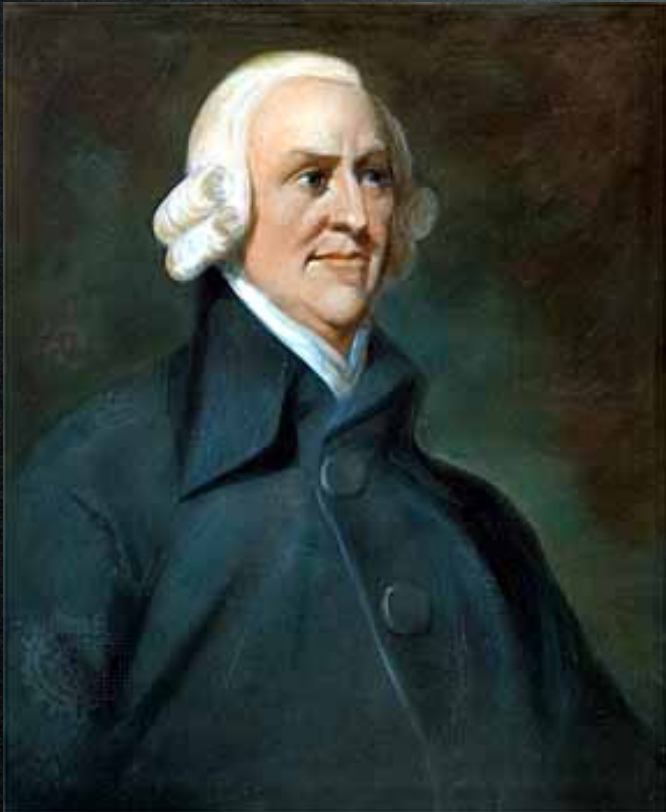
「それらの対立する利害について何らかの適切な比較をなしうるにはまず、われわれは自分の位置を変えなければならない。われわれは、自らの場所からでも、他人の場所からでもなく、また、自らの目でも、他人の目でもなく、**どちらとも特別な関係を持たず、両者の間で公平に判断する、第三者の場所から、第三者の目で、それらの利害を眺めなければならない。**」 [引用-5]

公平な第三者

自分に対する**適切な判断の基準**を与えてくれるのは、自分と利害関係にない、そして自分に対して特別な好意や敵意をもたない第三者、すなわち「**公平な観察者**」たちだけ！

公平な観察者

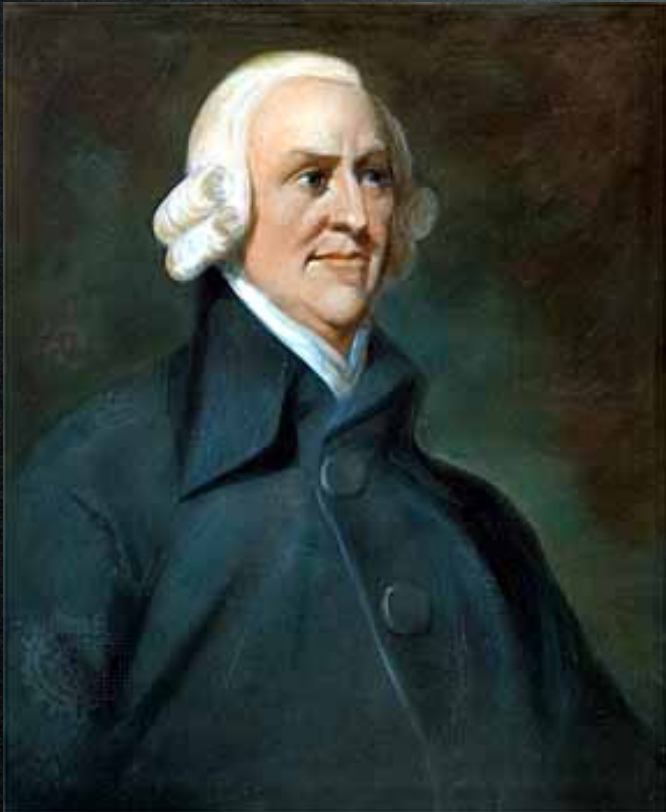
公平な観察者の特徴



アダム・スミス

公平な観察者

公平な観察者の特徴

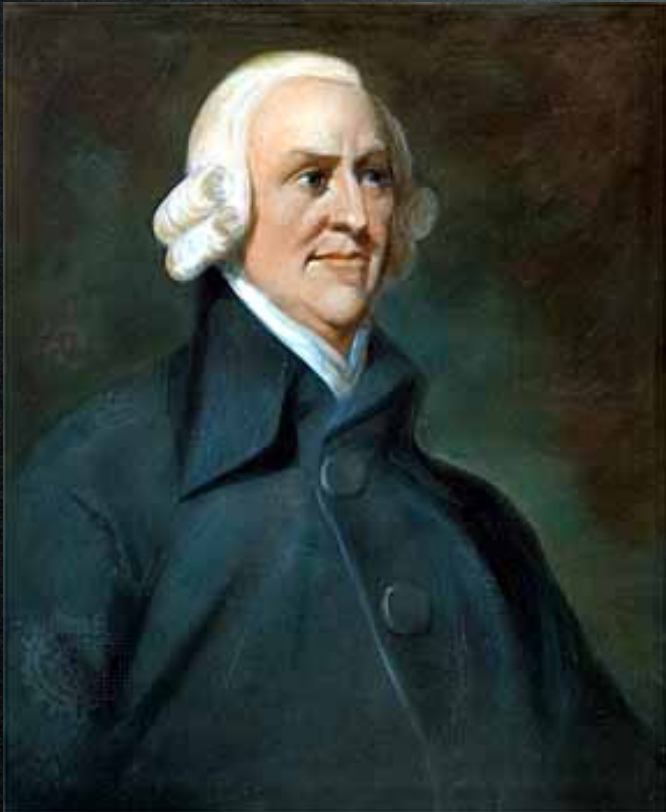


アダム・スミス

◆ 個人的利害にとらわれない

公平な観察者

公平な観察者の特徴

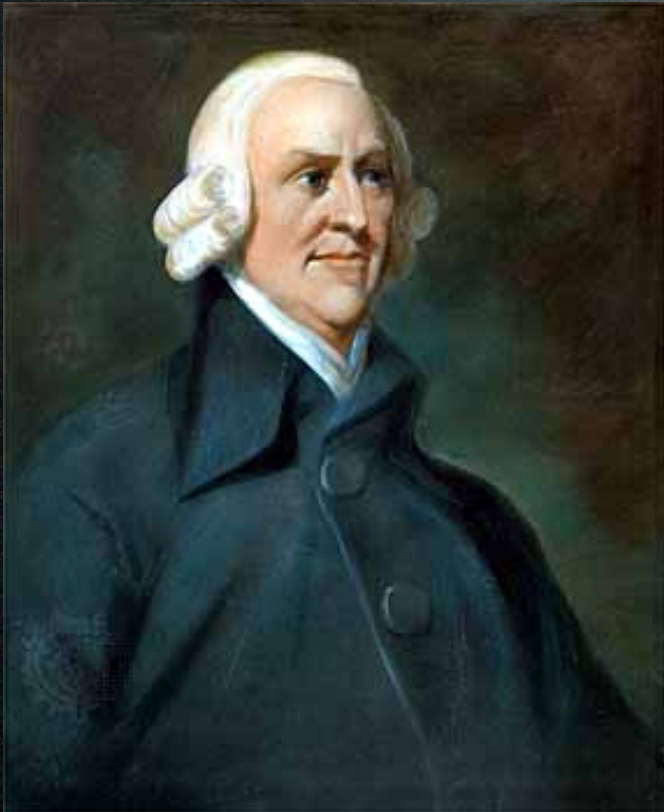


アダム・スミス

- ◆ 個人的利害にとらわれない
- ◆ 個人的感情にとらわれない

公平な観察者

公平な観察者の特徴

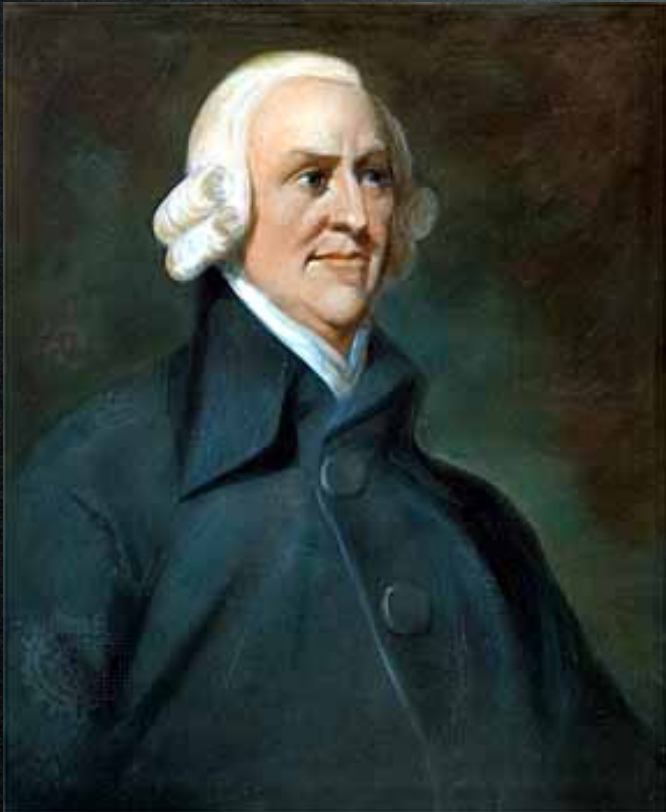


アダム・スミス

- ◆ 個人的利害にとらわれない
- ◆ 個人的感情にとらわれない
- ◆ 関連する事情に通じている

公平な観察者

公平な観察者の特徴



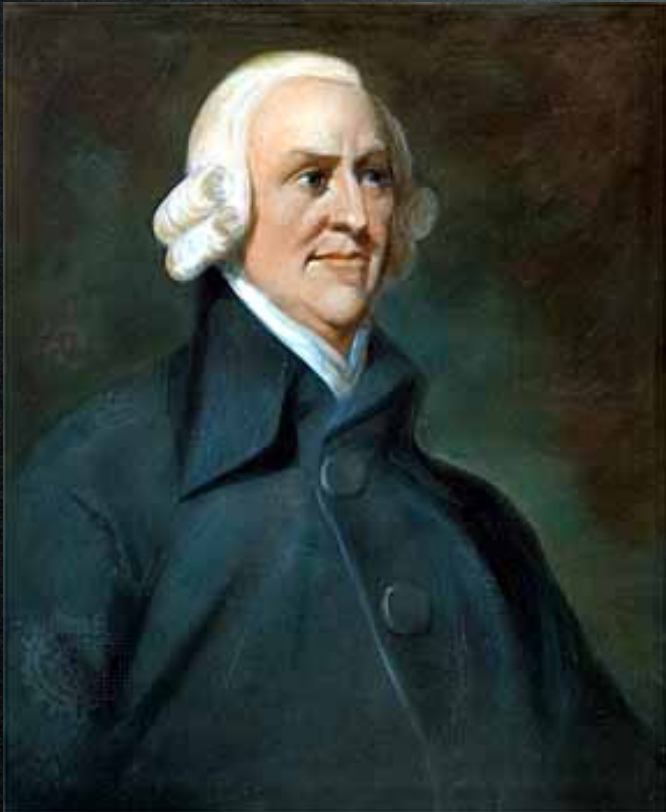
アダム・スミス

- ◆ 個人的利害にとらわれない
- ◆ 個人的感情にとらわれない
- ◆ 関連する事情に通じている

公平な観察者：
理想的な観察者

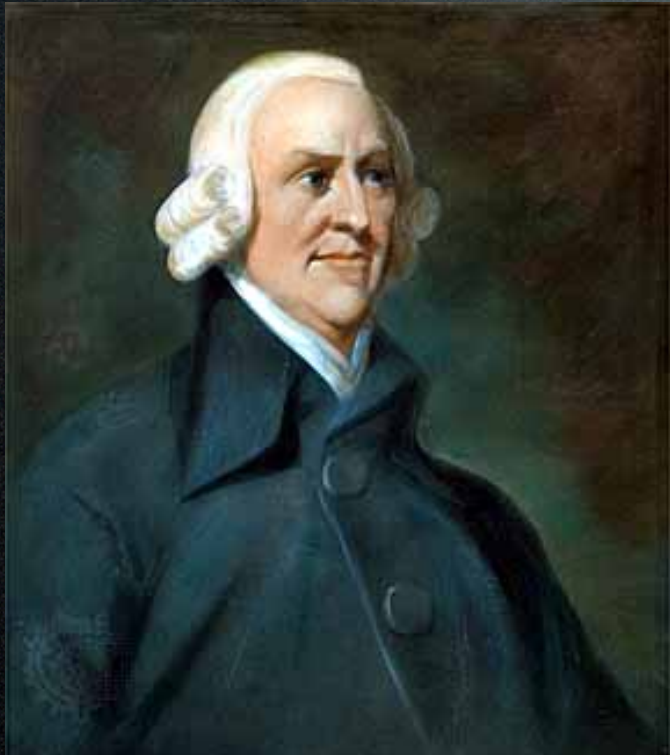
公平な観察者

われわれは、観察者としての経験、そして判断される当事者としての経験を通じて、自分が所属する社会において、**「公平な観察者」**たちが実際に他人の感情や行為をどのように判断するか学んでいく。その結果...



アダム・スミス

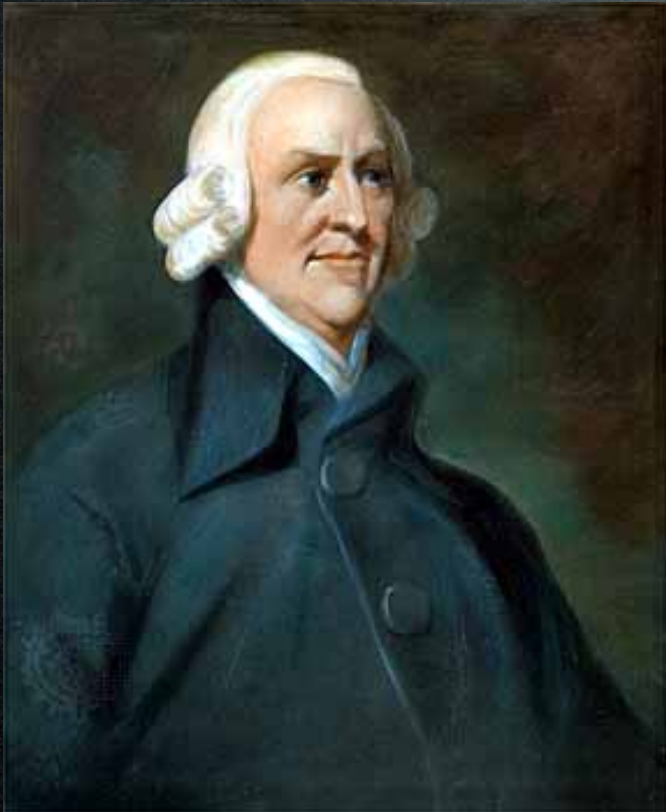
公平な観察者



われわれは、観察者としての経験、そして判断される当事者としての経験を通じて、自分が所属する社会において、「公平な観察者」たちが実際に他人の感情や行為をどのように判断するか学んでいく。その結果...

「公平な観察者」の基準が、
自分の胸中に形成されていく！

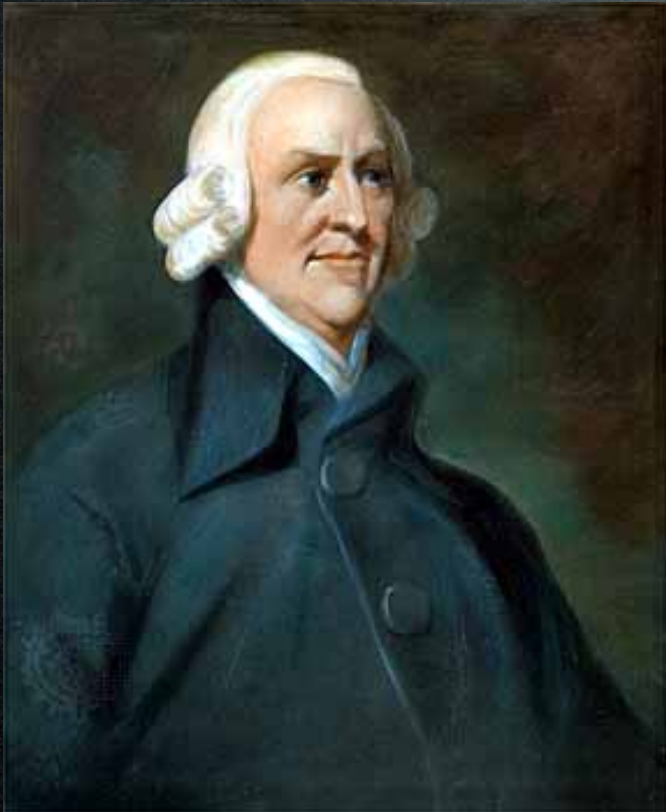
自分に対する道德判断



アダム・スミス

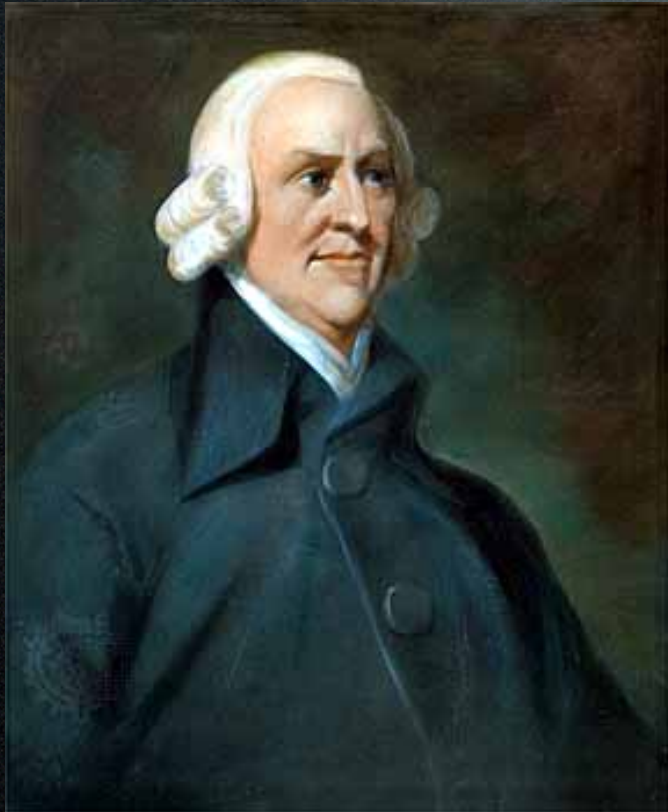
自分に対する道徳判断

裁判との類比



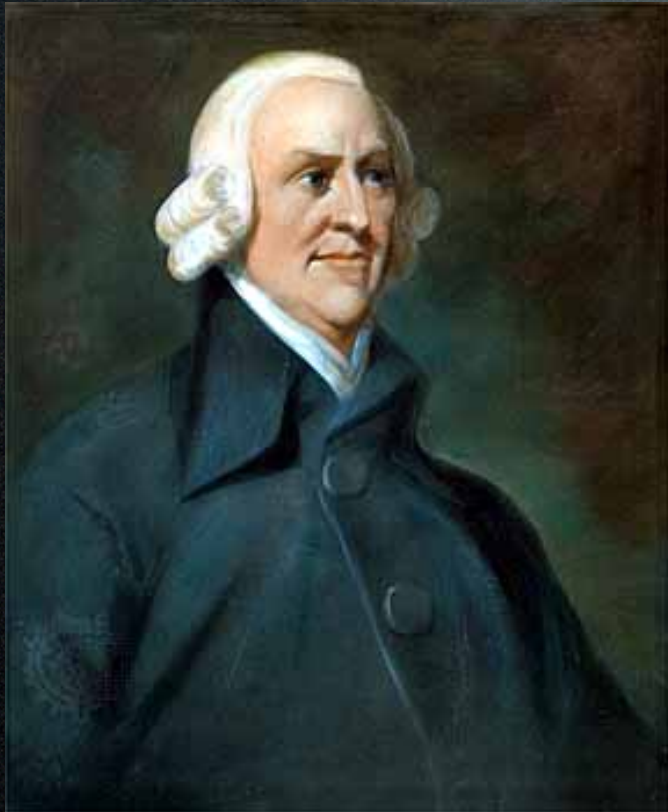
自分に対する道德判断

裁判との類比



自分に対する道德判断

裁判との類比



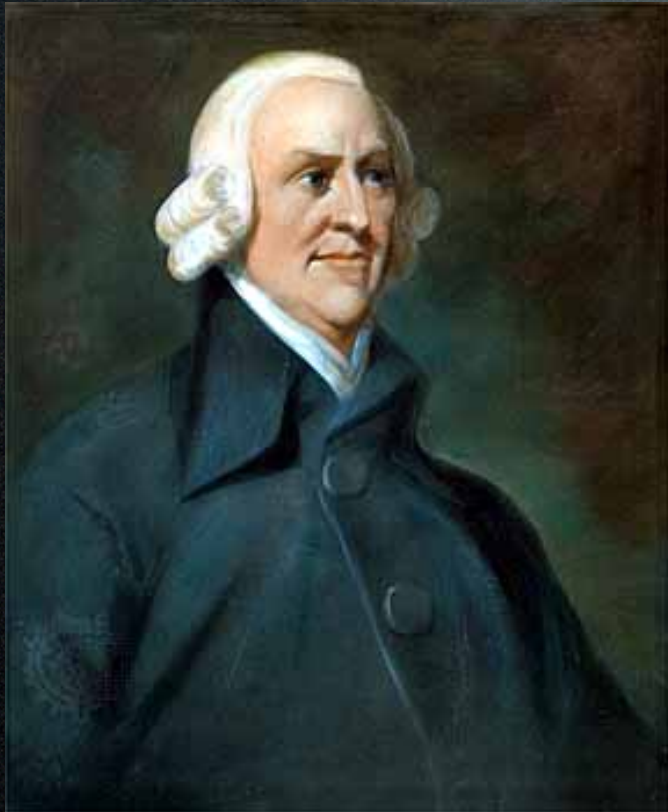
アダム・スミス

自身を二人の人物に分割した上で、自分の感情や行為を判断する

[1]行為者：裁判を受ける被告

自分に対する道徳判断

裁判との類比



アダム・スミス

自身を二人の人物に分割した上で、自分の感情や行為を判断する

[1]行為者：裁判を受ける被告

[2]観察者：裁判官

自分に対する道徳判断

自分に対する道德判断

たとえば、適切な動機から親切な行為をした人は
「自分が行為した動機を**振り返り**、それを、利害
に関心のない観察者が調べるような見地で調べる
場合、この**想定された公平な裁判官の是認**に共感
することで、自らを**賛美**する。」 [引用-6]

自分に対する道徳判断

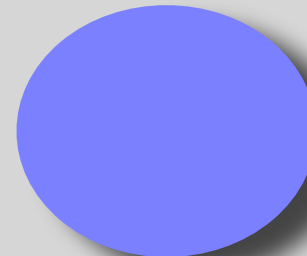
たとえば、適切な動機から親切な行為をした人は
「自分が行為した動機を**振り返り**、それを、利害
に関心のない観察者が調べるような見地で調べる
場合、この**想定された公平な裁判官の是認**に共感
することで、自らを**賛美**する。」[引用-6]

人は、「想定された公正な裁判官」の
是認に対する共感によって、自分の過去の
行動を是認する。[TMS, III.1.2]

自分に対する道徳判断

自分に対する道德判断

状況・立場

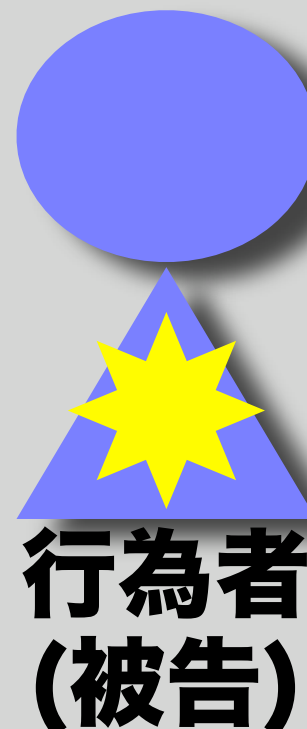


行為者
(被告)

自分に対する道徳判断



状況・立場



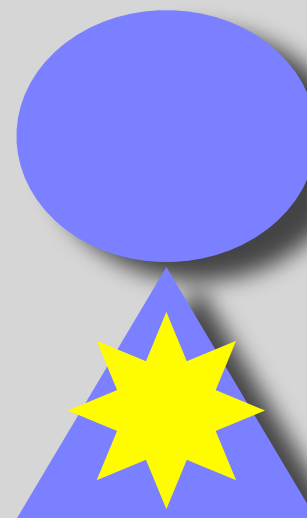
自分に対する道德判断

判断



胸中の公平な観察者
(裁判官)

状況・立場



行為者
(被告)

自分に対する道徳判断

是認！

適切！

一致！

私って素敵★

胸中の公平な観察者
(裁判官)

行為者
(被告)

自分に対する道徳判断

自分に対する道德判断

- ・われわれの胸中には**公平な観察者**としての**もう一人の自分**がいて、自分の感情や行為が適切なものか否かを判断する。

自分に対する道德判断

- ・われわれの胸中には**公平な観察者**としての**もう一人の自分**がいて、自分の感情や行為が適切なものか否かを判断する。
- ・われわれは、常に胸中の公平な観察者の判断に従うわけではないけれど、**その判断を気にしないではいけない。**

自分に対する道德判断

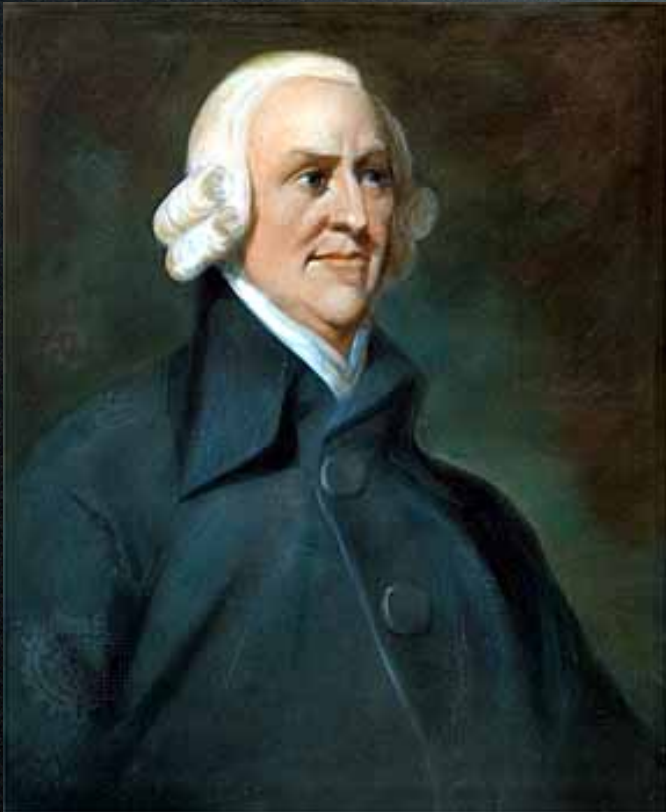
- ・われわれの胸中には**公平な観察者**としての**もう一人の自分**がいて、自分の感情や行為が適切なものか否かを判断する。
- ・われわれは、常に胸中の公平な観察者の判断に従うわけではないけれど、**その判断を気にしないではいられない**。
- ・自分の感情や行為に対して、胸中の公平な観察者から**是認を受ける場合には安心するし、否認される場合には不安になる**。

公平な観察者 まとめ

公平な観察者 まとめ

◆ 経験を通じて「**公平な観察者**」の基準を胸中に獲得！

◆ **公平な観察者**＝内なる人、人類の代表者、胸中の半神、神の代理人

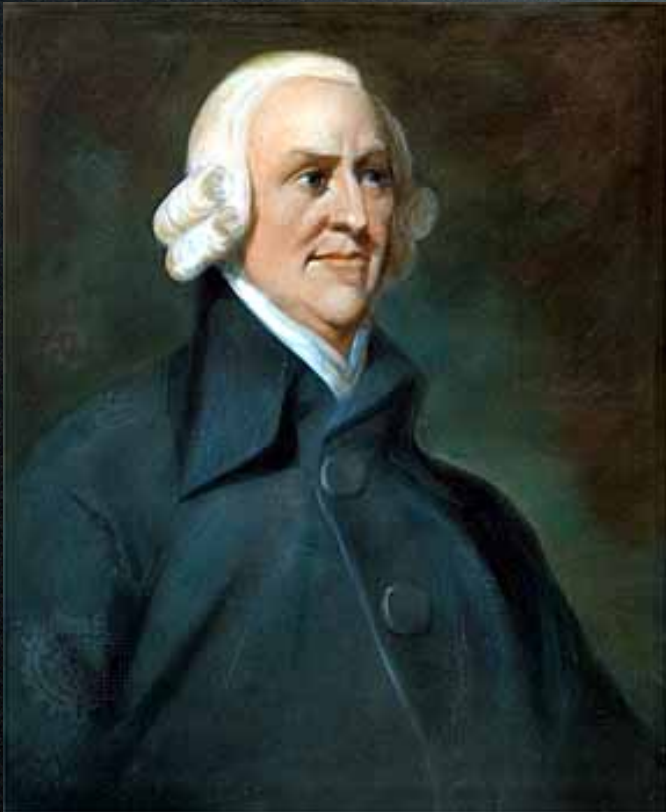


アダム・スミス

公平な観察者 まとめ

◆ 経験を通じて「**公平な観察者**」の基準を胸中に獲得！

◆ **公平な観察者** = 内なる人、人類の代表者、胸中の半神、神の代理人



アダム

公平な観察者 = 良心

ヒュームとスミスの倫理思想

共感と道徳感情

ヒュームとスミスの倫理思想

共感と道德感情

- ヒューム、スミスともに「共感」を通じて、「道德感情を獲得」するという、**大きな枠組みは一緒。**

ヒュームとスミスの倫理思想

共感と道德感情

- ヒューム、スミスともに「共感」を通じて、「道德感情を獲得」という、**大きな枠組みは一緒。**
- でも、[1]「共感」ということで意味されている内容、[2]獲得される道德感情に関して、大きな違いがある。

ヒュームとスミスの倫理思想

共感と道徳感情

ヒュームとスミスの倫理思想

共感と道德感情

[1]

ヒュームの共感：相手の様子から推測
スミスの共感：想像上の立場交換

ヒュームとスミスの倫理思想

共感と道徳

感情そのもの

[1]

ヒュームの共感：相手の様子から推測
スミスの共感：想像上の立場交換

ヒュームとスミスの倫理思想

共感と道徳

感情そのもの

[1]

ヒュームの共感：相手の様子から推測
スミスの共感：想像上の立場交換

状況に焦点

ヒュームとスミスの倫理思想

共感と道德感情

[1]

ヒュームの共感：相手の様子から推測
スミスの共感：想像上の立場交換

ヒュームとスミスの倫理思想

共感と道德感情

[1]

ヒュームの共感：相手の様子から推測
スミスの共感：想像上の立場交換

[2]

ヒュームの道德感情：相手と同じ
スミスの道德感情：相手と一致するとは限らない

ヒュームとスミスの倫理思想

客観的な視点

ヒュームとスミスの倫理思想

客観的な視点

- ヒューム、スミスともに「共感」の偏りを問題視。その結果「客観性」を確保する視点を導入。

ヒュームとスミスの倫理思想

客観的な視点

- ヒューム、スミスともに「共感」の偏りを問題視。その結果「客観性」を確保する視点を導入。
- 両方とも、経験を積むことで、徐々に獲得されるものであるけれど、その内実は驚くほど異なっている。

ヒュームとスミスの倫理思想

客観的な視点

ヒュームとスミスの倫理思想

客観的な視点

ヒュームの「一般的観点」
被評価者を取り巻く「身近な関係者」の視点

ヒュームとスミスの倫理思想

客観的な視点

ヒュームの「**一般的観点**」

被評価者を取り巻く「**身近な関係者**」の視点

スミスの「**公平な観察者**」

胸中に形成される「**利害・感情にとらわれていない、事情に通じた人**」の視点

ヒュームとスミスの倫理思想

客観的な視点

ヒュームの
被評価者を取り巻く

観察者の外にある
実際の観点

スミスの「公平な観察者」

胸中に形成される「利害・感情にとらわれていない、事情に通じた人」の視点

ヒュームとスミスの倫理思想

客観的な視点

ヒュームの
被評価者を取り巻く

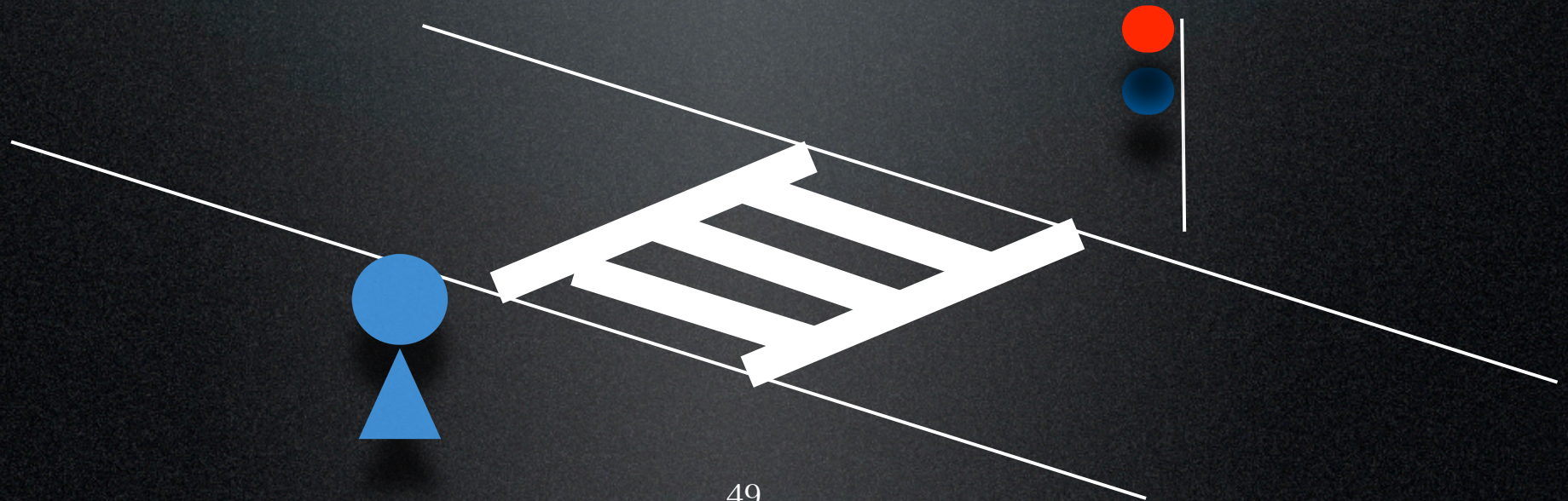
観察者の外にある
実際の観点

スミスの「公
胸中に形成される「理
ない、事情に通じた人」

観察者の内にある
理想的な観点

Question !

- 真夜中、車が来ておらず、しかも誰も見ていないとしたら、あなたは**赤信号**だけれど横断歩道を渡りますか？

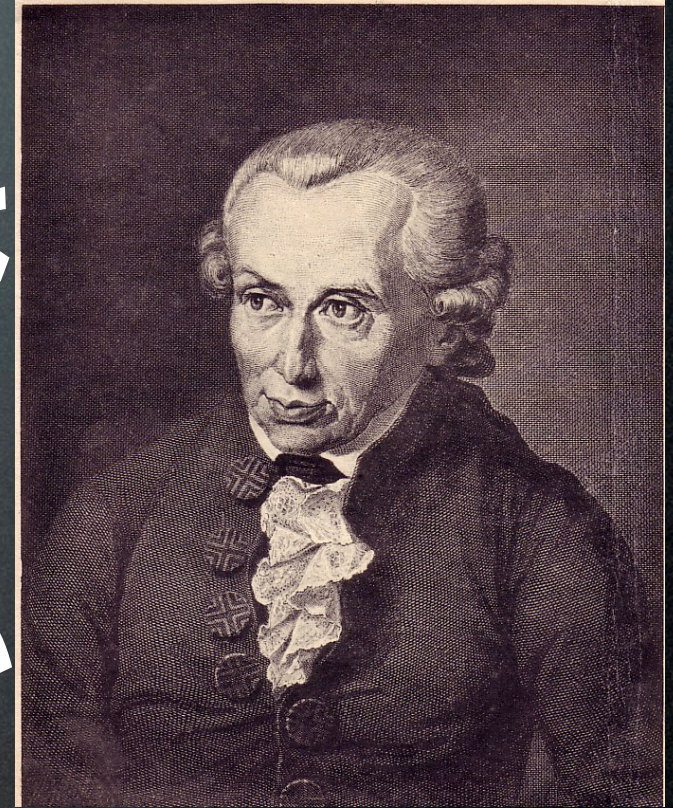


カントの考えに従うと...

カントの考えに従うと...

理由が何であれ、
渡ってしまうのは
義務違反！

◆ 義務なのだから、
ダメなものは
ダメ！



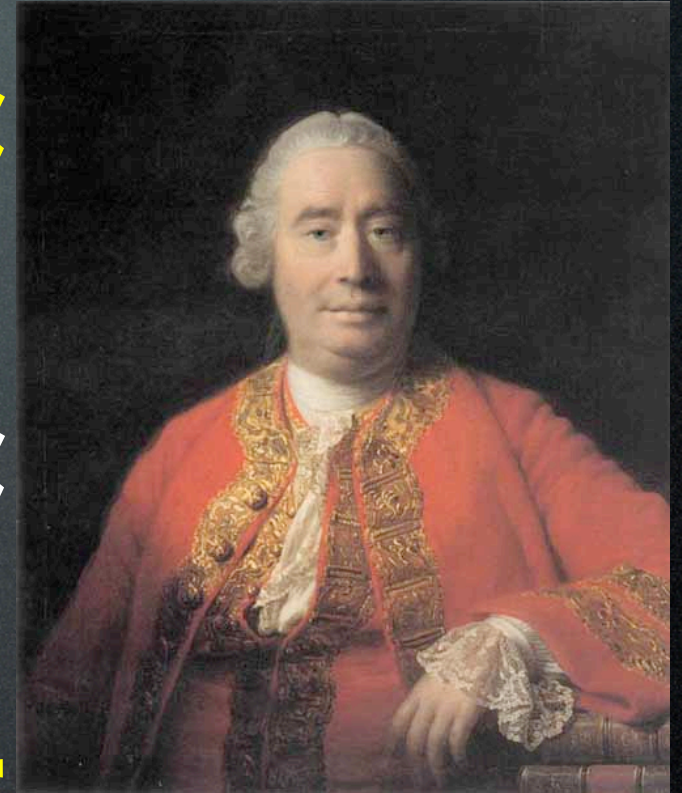
カント

ヒュームの考えに従うと...

ヒュームの考えに従うと...

車に引かれる危険性がないという利益を鑑みて、渡ってしまうかもしれない。

◆その人の行為を観察する他人が周囲にいない、という点が大きい。



ヒューム

ヒュームの考えに従うと...

車に引かれる危険
いという利益を鑑
渡ってしまっても
い。

◆その人の行為を観察す
る他人が周囲にいない、
という点が大きい。

- 理性は情念の奴隷！
- わかっちゃいるけど
やめられない！



ヒューム

ヒュームの考えに従うと...

車に引かれる危険
いという利益を鑑
渡ってしまいかも
い。

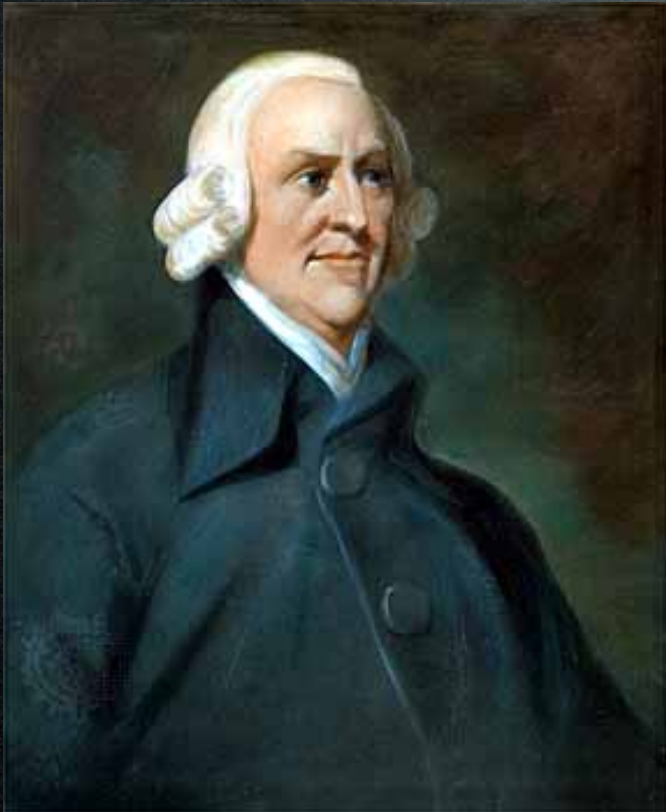
◆その人の行為を
る他人が周囲にい
という点が大きい。

- 理性は情念の奴隷！
- わかっちゃいるけどやめられない！

道徳における「他
者」の存在の重要性

スミスの考えに従うと...

スミスの考えに従うと...



アダム・スミス

胸中に「公平な観察者」が形成されているような人なら、横断歩道は渡らない。

∴ 周りに人がいなくても、**「公平な観察者」が胸中にいて、その是認を求める気持ちが、立ち止まらせる。**

スミスの考えに従うと...

胸中に「公平な観察者」が
形成されているような人な
る歩道は渡らない。

- 自己反省の重要性！
- 他者の視線の内面化

に人がいなくて
「公平な観察者」が胸
に、その是認を求め
る気持ちが、立ち止まらせ

アダム・スミス

る。

まとめ

ヒュームにおける有徳な人：情念
の闘争のうちにある存在

スミスにおける有徳な人：良心に
よって自己を反省し、良心の統制
に従って行為する存在

あくまで「他者」の感情・
情念が重要（他律的）

ヒュームに依拠する存在

の闘争のうちにある存在

スミスにおける有徳な人：良心に
よって自己を反省し、良心の統制
に従って行為する存在

あくまで「他者」の感情・
情念が重要 (他律的)

ヒュームにおける存在

の闘争のうちにある存在

スミスにおける有徳な人：良心に

よって自己
「自分」の中にある「良
心」が重要 (自律的)

に従って行為する存在

あくまで「他者」の感情・
情念が重要 (他律的)

ヒュームに依拠する存在

の闘争のうちにある存在

スミスにおける有徳な人：良心に

よって自己
「自分」の中にある「良
心」が重要 (自律的)

に従って行為する存在

自律 ⇒ カントへ

End